高槻市文化財調査概要XXX

嶋上遺跡群27

2003

高槻市教育委員会

嶋上遺跡群 27

はしがき

近年における経済状況の低迷が、埋蔵文化財の調査に関しても様々な影響を及ぼすなか、本市におきましては市内各所で重要な調査をおこなうなど、豊富な内容の一年となりました。

嶋上郡衙跡をはじめとする市内の各遺跡では、遺跡外縁部分の個人住宅建設等の開発にともなう小規模な調査が主流となっておりますが、これらの成果を積み上げていくことにより、本市における各遺跡の範囲や内容を正確に把握するための基礎資料となっております。

史跡今城塚古墳におきましては、第6次規模確認調査を実施し、内堤部での埴輪祭祀区の範囲や造出の状況を確認するなど、整備にむけた重要な知見をあらたに得ることができました。

闘鶏山古墳で発見された竪穴式石室は、スコープ探査によって完全未盗掘であることが判明し、前方後円墳の埋葬方法をうかがい知る第一級の資料であります。さらには、本市5番目の国史跡して指定を受けましたことは、三島古墳群の保存を視野に入れた歴史遺産の恒久保存にむけての大きな前進といえましょう。

高槻城跡に関しましては、近世高槻城の縄張りや当時の暮らしぶりをより正確に復元するための手掛かりが集積されており、これらの成果はこのたび開館いたしました「しろあと歴史館」におきましてさっそく展覧することができました。

最後に、本書をまとめるにあたり、ご教示やご協力いただいた関係機関をはじめ、多くの方々に心から感謝申し上げます。

平成15年3月31日

高槻市教育委員会　文化財課
課長　冨成哲也

例　　言

1．本書は、高槻市教育委員会が平成14年度国庫補助事業として計画、実施した高槻市所在の史跡・嶋上郡衙跡附寺跡周辺部及び市内遺跡の発掘調査事業（総額30,000,000円）の概要報告書である。

2．事業は、高槻市教育委員会の直営事業として実施し、大阪府教育委員会の助力を得て、平成14年４月８日着手、平成15年３月31日に終了した。

3．調査は、高槻市教育委員会文化財課埋蔵文化財調査センターがおこなった。本書の執筆・図面作成・製図は、橋本久和、鐘ヶ江一朗、宮崎康雄、高橋公一、木曽　広、西村恵祥がおこない、分担は文末に記した。遺構・遺物の写真撮影は清水良真が担当した。遺物整理については以下の各氏から援助をうけた。厚く感謝する。

荒井純子・池田理美・井上明子・白銀良子・高橋美喜子・栂靖代・西岡和江・松下智子

（順不同・敬称略）

4．調査の実施にあたり、以下に掲げる土地所有者の方々をはじめ、関係機関各位のご協力をいただいた。ここに記して感謝いたします。

小林清、金海一成、大塚久美子、古賀敬造、桃木康行、山根豊明、得津一夫、田辺謙一郎、山下泰輔
安達勝久、古川利夫、橘宏、西野康代、北舎眞澄、大宅光彦、宮路和俊、山下吉信、愛甲哲也、森嘉和
米澤操、米澤郁子、吉田みどり、門忠男、葛葉哲也、太田美智子、伊藤啓二郎、伊藤初子、片山正治

（順不同・敬称略）

目　　次

Ⅰ　嶋上郡衙跡 …… 1
Ⅱ　鴨神社跡 …… 6
Ⅲ　郡家今城遺跡 …… 8
Ⅳ　宮田遺跡 …… 11
Ⅴ　中城遺跡 …… 12
Ⅵ　田能北遺跡 …… 14
Ⅶ　天神山遺跡 …… 15
Ⅷ　安満遺跡 …… 20
Ⅸ　高槻城跡 …… 25
Ⅹ　闘鶏山古墳確認調査 …… 31
Ⅺ　岡本山古墳測量調査 …… 33
Ⅻ　今城塚古墳規模確認調査 …… 34
XIII　まとめ …… 36

No.	遺跡名（地区）	調査地	面積（m²）	申請者
1	嶋上郡衙跡（5－D）	清福寺町759－1の一部	218.17	小林　清
2	〃　（5N－P）	清福寺町759－1の一部	175.60	金海一成
3	〃　（13－A）	郡家本町729	965.00	大塚久美子
4	〃　（43－C）	郡家新町395－27	96.67	古賀敬造
5	〃　（43－O）	郡家新町395－31	68.47	桃木康行
6	鴨神社跡（2002－1）	赤大路町4－8	193.17	山根豊明
7	〃　（2002－2）	赤大路町4－5	70.01	得津一夫
8	郡家今城遺跡（2002－1）	郡家新町169－1の一部	76.49	田辺謙一郎
9	〃　（2002－2）	郡家新町169－1の一部	75.74	山下泰輔
10	〃　（2002－3）	郡家新町169－1の一部	76.49	安達勝久
11	宮田遺跡（2002－1）	宮田町三丁目87－4	207.49	古川利夫
12	中城遺跡（2002－1）	北昭和台町460－6の一部	83.83	橘　宏
13	〃　（2002－2）	北昭和台町460－6の一部	78.20	西野康代
14	田能北遺跡（2002－1）	大字田能小字上条1	954.34	北舎眞澄
15	天神山遺跡（2002－1）	天神町二丁目2－6	138.39	大宅光彦
16	〃　（2002－2）	天神町二丁目10－36	299.58	宮路和俊
17	〃　（2002－3）	天神町二丁目10－32	325.48	山下吉信
18	〃　（2002－4）	天神町二丁目932－93	165.56	愛甲哲也
19	〃　（2002－5）	天神町一丁目1117	13,279.39	森　嘉和
20	安満遺跡（2002－1）	高垣町281－1	998.56	米澤　操・郁子
21	高槻城跡（2002－1）	出丸町4－40	59.68	吉田みどり
22	〃　（2002－2）	城内町1015－25	120.32	門　忠男
23	〃　（2002－3）	城内町1015－8	107.93	葛葉哲哉
24	〃　（2002－4）	八幡町1052－13	78.71	太田美智子
25	〃　（2002－5）	大手町1133－3の一部	146.49	伊藤啓二郎・初子
26	〃　（2002－6）	城内町1015－1の一部	65.43	片山正治

平成14年度　市内遺跡調査一覧

Ⅰ．嶋上郡衙跡

1．嶋上郡衙跡（5―D地区）の調査

調査地は高槻市清福寺町759－1番地にあたり、小字は「東垣内」である。現状は宅地である。このたび、個人住宅建設工事が計画されたため、事前に発掘調査を実施した。当該地は遺跡北辺部にあたり、式内阿久刀神社の西100mに位置している。周辺の調査では弥生時代から古墳時代の竪穴住居跡などの遺構が検出されている。

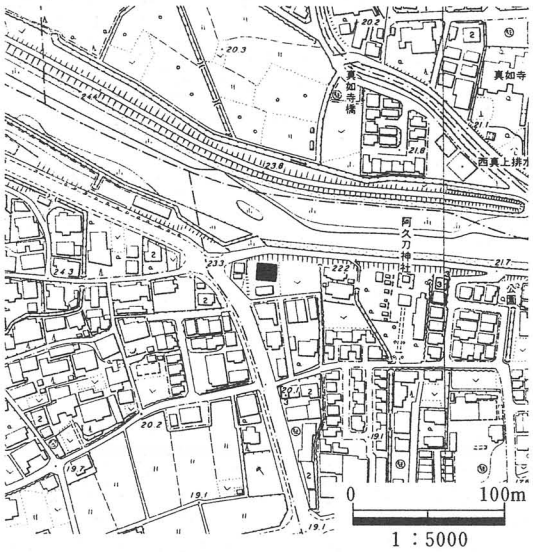


図１　嶋上郡衙跡（5-D地区）調査位置図

調査区を届出地中央部に設定し、重機で盛土・耕作土を除去した後に、人力による掘削及び精査をおこなった。基本層序は灰褐色砂質土（盛土：0.4m）、暗灰色粘質土（耕作土：0.16m）、灰褐色砂質土（床土：0.1m）、灰黄褐色砂質土（地山：0.06m）、灰褐色礫砂〔地山〕である。遺構・遺物は検出されなかった。

（西村）

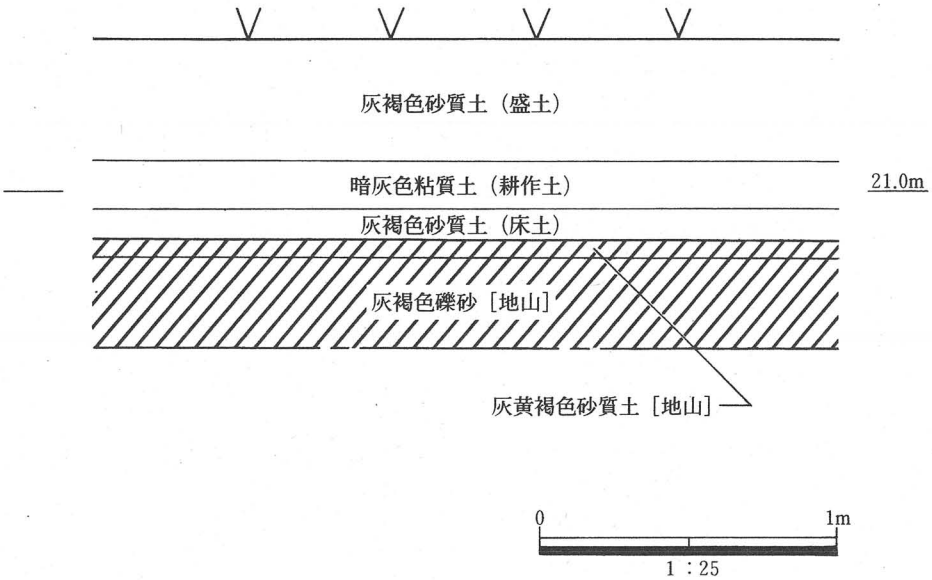


図２　嶋上郡衙跡（5-D）土層模式図

2．嶋上郡衙跡（5N―P地区）の調査

調査地は高槻市清福寺町759－1番地にあたり、小字は「東垣内」である。現状は宅地である。このたび、個人住宅建設工事が計画されたため、事前に発掘調査を実施した。当該地は市域を貫く芥川の西岸に位置し、周辺の調査では弥生時代末から古墳時代の竪穴住居跡などの遺構が検出されている。

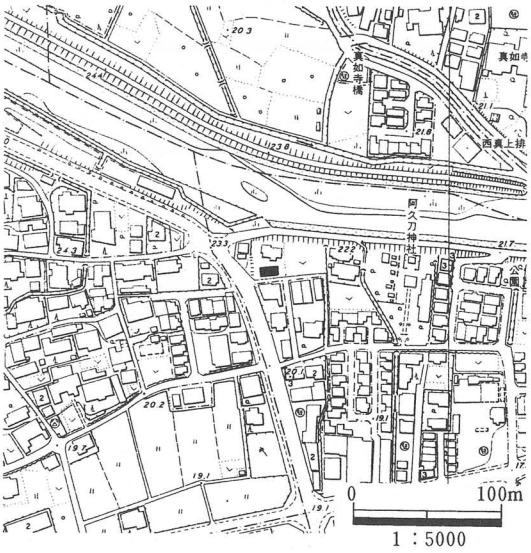


図３　嶋上郡衙跡（5N-P地区）調査位置図

調査区を届出地中央部に設定し、重機で盛土・耕作土を除去した後に、人力による掘削及び精査をおこなった。基本層序は灰褐色砂質土（盛土：0.52m）、暗灰色粘質土（耕作土：0.18m）、灰褐色砂質土（床土：0.15m）、灰黄褐色砂質土（地山：0.06m）、灰褐色礫砂〔地山〕である。遺構・遺物は検出されなかった。　（西村）

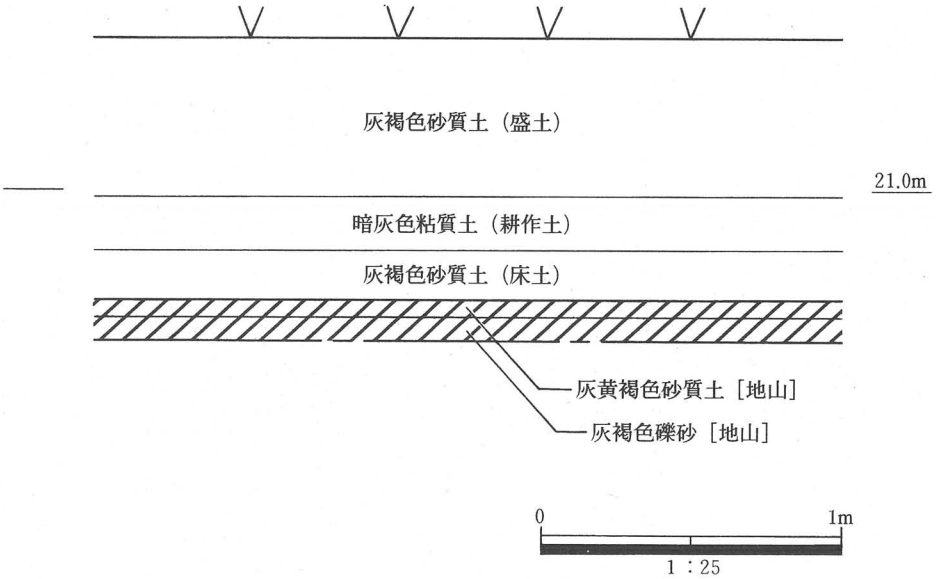


図４　嶋上郡衙跡（5N-P）土層模式図

3．嶋上郡衙跡（13ーA地区）の調査

調査地は高槻市郡家本町729番地にあたり、小字は「西垣内」である。現状は水田である。このたび、駐車場造成工事が計画されたため、工事立会を行った。

当該地は遺跡の北縁部にあたり、遺構・遺物の希薄な地区であることが知られている。層序は耕作土(0.2m)、床土・整地土(0.1m)、青灰色砂礫〔地山〕である。地山面の標高は20.1mである。遺構・遺物は検出されなかった。(鐘ヶ江)

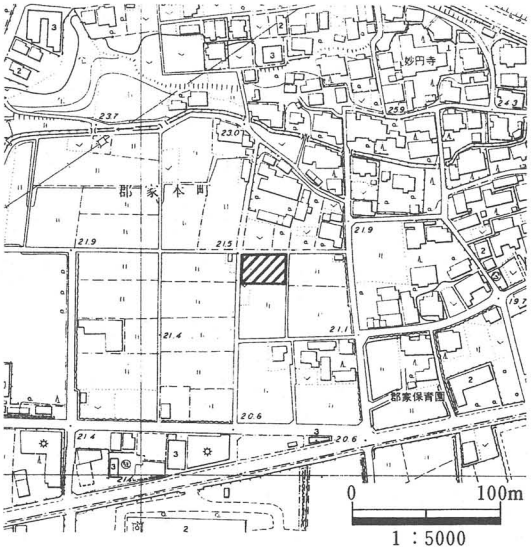


図５　嶋上郡衙跡（13-A地区）調査位置図

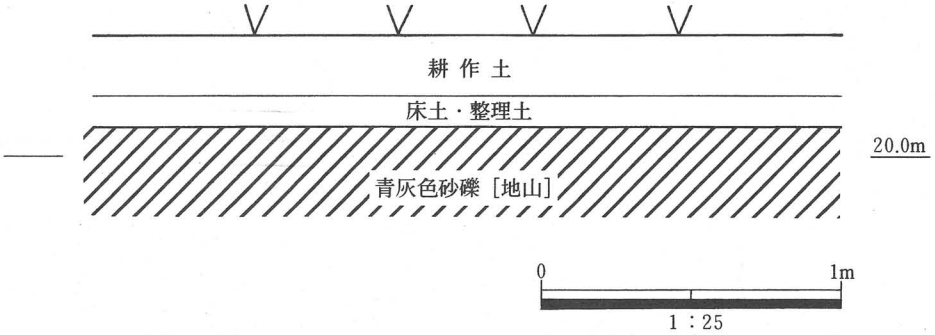


図６　嶋上郡衙跡（13-A）土層模式図

4．嶋上郡衙跡（43ーC地区）の調査

調査地は高槻市郡家新町395－27番地にあたり、小字は「仮又」である。現状は宅地である。このたび、個人住宅建設計画が計画されたため、事前に調査を行った。

当該地は遺跡の西側にあたり、周辺の調査では弥生時代末から古墳時代にかけての遺構・遺物が検出されている。層序は盛土(1.0m)、耕作土(0.2m)、灰白色粘土(0.1m)、黄灰色粘土〔地山〕である。遺構・遺物は検出されなかった。

（木曽）

図７　嶋上郡衙跡（43-C地区）調査位置図

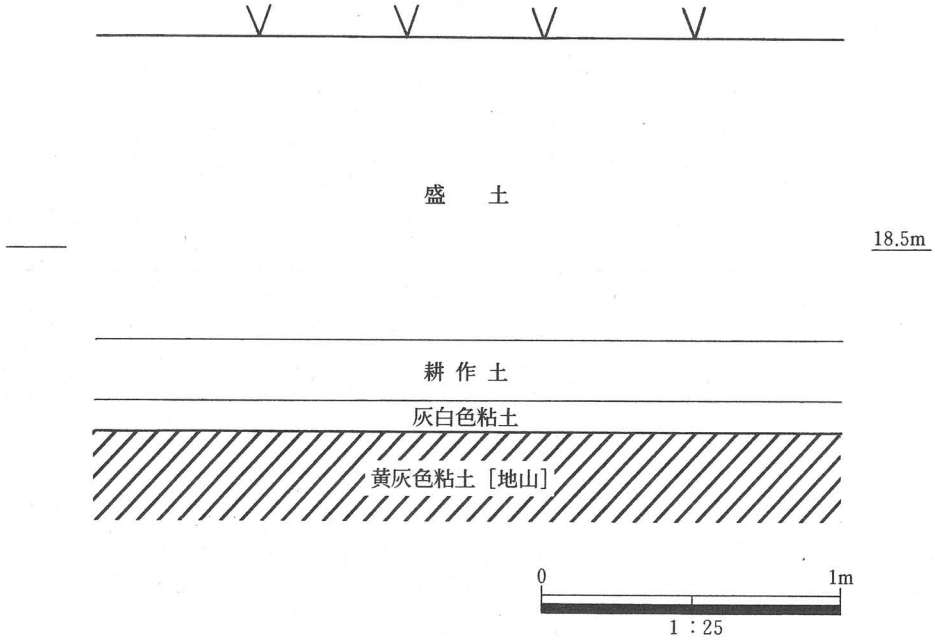


図８　嶋上郡衙跡（43-C）土層模式図

5．嶋上郡衙跡（43ーO地区）の調査

調査地は高槻市郡家新町395－31番地にあたり、小字は「仮又」である。現状は宅地である。このたび、個人住宅建設工事が計画されたため、事前に発掘調査を実施した。当該地は遺跡の西側にあたり、周辺の調査では弥生時代末から古墳時代にかけての土壙墓・古墳などの遺構が検出されており、一帯は長期にわたって墓域とされてきたことが判明している。

図９　嶋上郡衙跡（43-O地区）調査位置図

調査区を届出地南東部に設定し、重機で盛土・耕作土を除去した後に、人力による掘削及び精査をおこなった。基本層序は明褐色砂質土（盛土：1.0ｍ）、暗褐色粘質土（耕作土：0.3ｍ）、黄灰色粘土〔地山〕である。遺構・遺物は検出されなかった。　（西村）

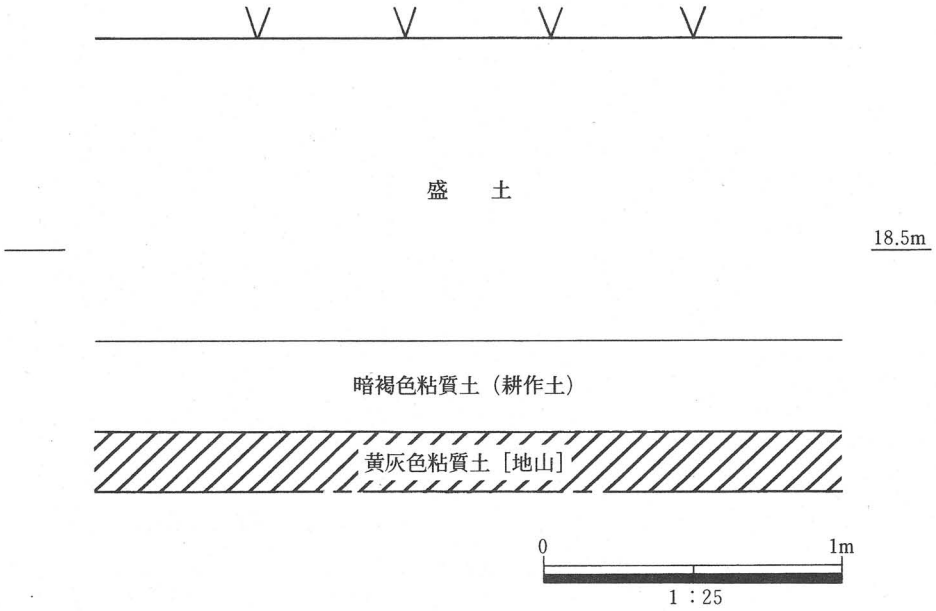


図10　嶋上郡衙跡（43-O）土層模式図

Ⅱ．鴨神社跡

6．鴨神社跡（2002—1地区）の調査

調査地は高槻市郡赤大路町4－8番地にあたり、小字は「東鴨林」である。現状は宅地である。このたび、個人住宅建設計画にともない、工事立会を実施した。

厚さ0.8mの盛土を除去すると、安定した暗黄褐色土が広がり地山と考えられる。遺構・遺物は検出されなかった。　（木曽）

図11　鴨神社跡（2002-1）調査位置図

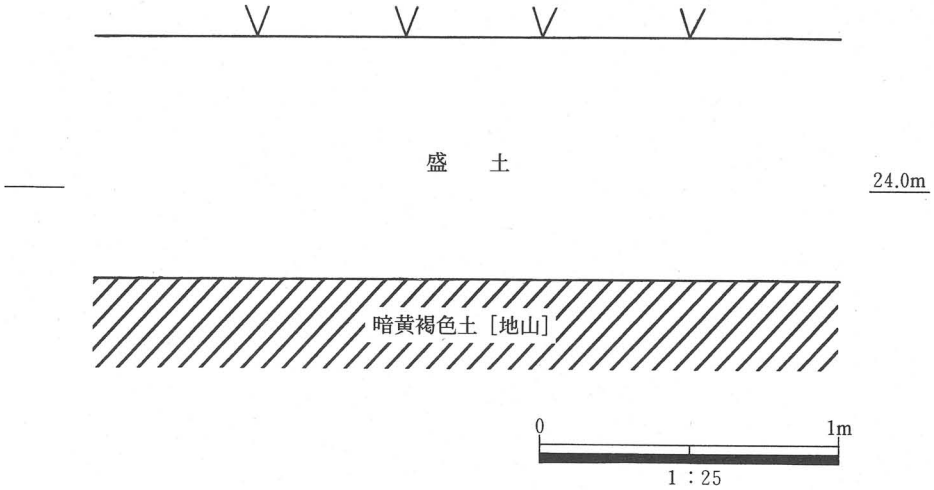


図12　鴨神社跡（2002-1）土層模式図

7．鴨神社跡（2002－2地区）の調査

調査地は高槻市郡赤大路町4－5番地にあたり、小字は「東鴨林」である。現状は宅地である。このたび、個人住宅建設にともない、工事立会を実施した。

層序は盛土(0.75m)、暗黄褐色土〔地山〕である。遺構・遺物は検出されなかった。　（木曽）

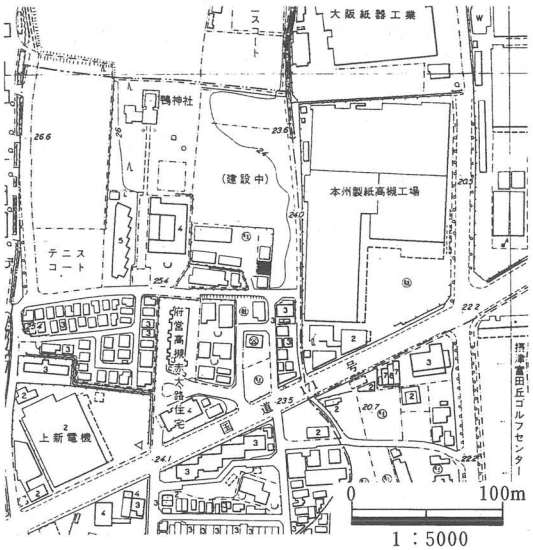


図13　鴨神社跡（2002-2）調査位置図

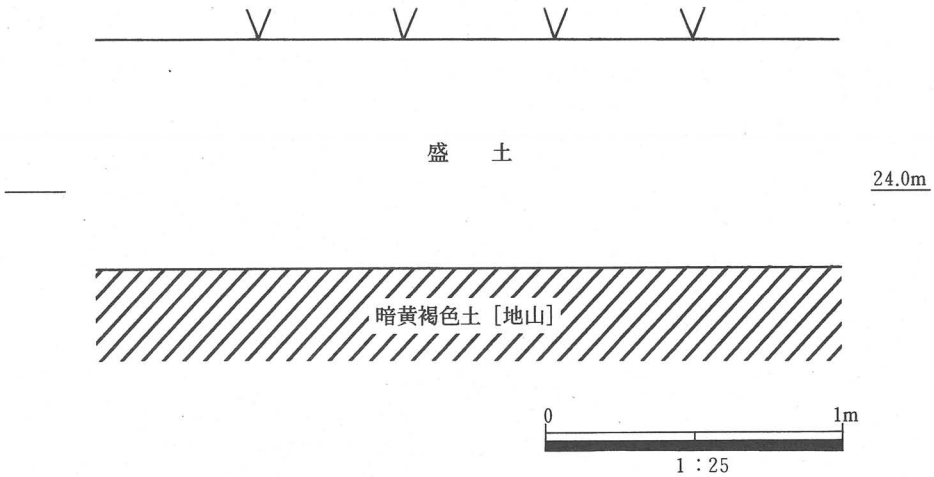


図14　鴨神社跡（2002-2）土層模式図

Ⅲ．郡家今城遺跡

8．郡家今城遺跡（2002―1地区）の調査

調査地は高槻市郡家新町169－1番地の一部にあたり、小字は「藤ヶ本」である。現状は宅地である。このたび、個人住宅建設にともない、工事立会を実施した。

調査地は集落の北縁にあたり、付近では山陽道跡や土壙墓群が調査されている。層序は盛土(0.5m)、耕作土(0.3m)、床土(0.05m)、青灰色粘土〔地山〕である。遺構・遺物は検出されなかった。（木曽）

図15　郡家今城遺跡（2002-1）調査位置図

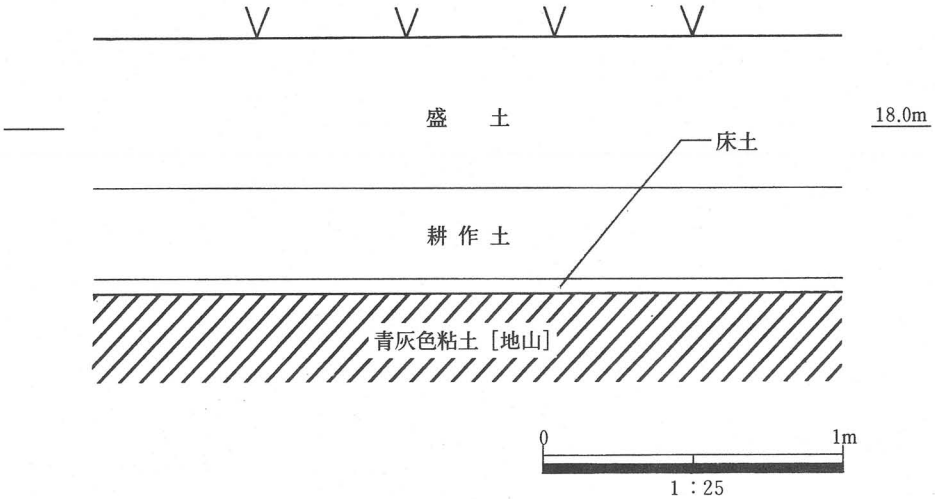


図16　郡家今城遺跡（2002-1）土層模式図

9．郡家今城遺跡（2002－2地区）の調査

調査地は高槻市郡家新町169－1番地の一部にあたり、小字は「藤ヶ本」である。現状は宅地である。このたび、個人住宅建設にともない、工事立会を実施した。

層序は盛土(0.6m)、耕作土(0.3m)、床土(0.05m)、青灰色粘土〔地山〕である。遺構・遺物は検出されなかった。　（木曽）

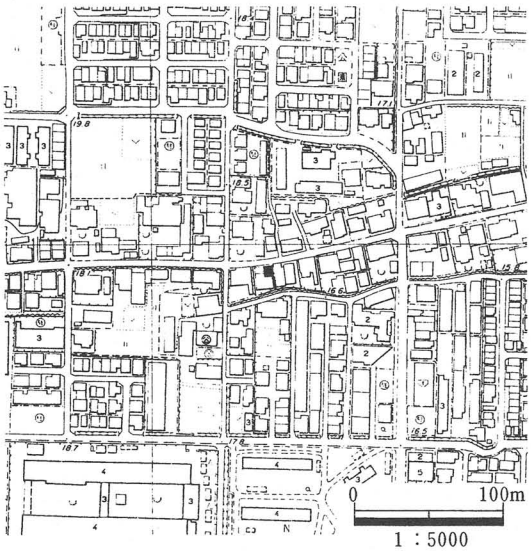


図17　郡家今城遺跡（2002-2）調査位置図

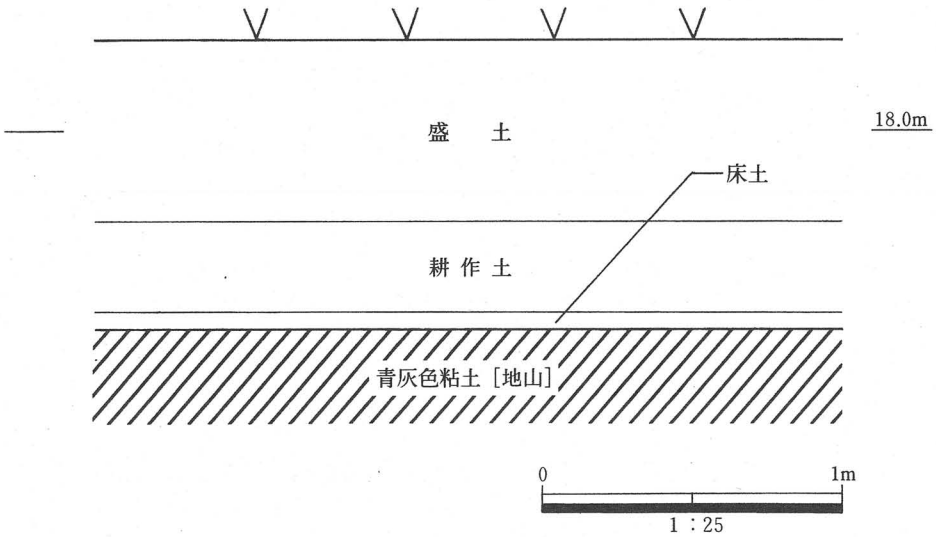


図18　郡家今城遺跡（2002-2）土層模式図

10. 郡家今城遺跡（2002―3地区）の調査

調査地は高槻市郡家新町169－1番地の一部にあたり、小字は「藤ヶ本」である。現状は宅地である。このたび、個人住宅建設にともない、工事立会を実施した。

層序は盛土(0.6m)、耕作土(0.3m)、床土(0.05m)、青灰色粘土〔地山〕である。遺構・遺物は検出されなかった。（木曽）

図19　郡家今城遺跡（2002-3）調査位置図

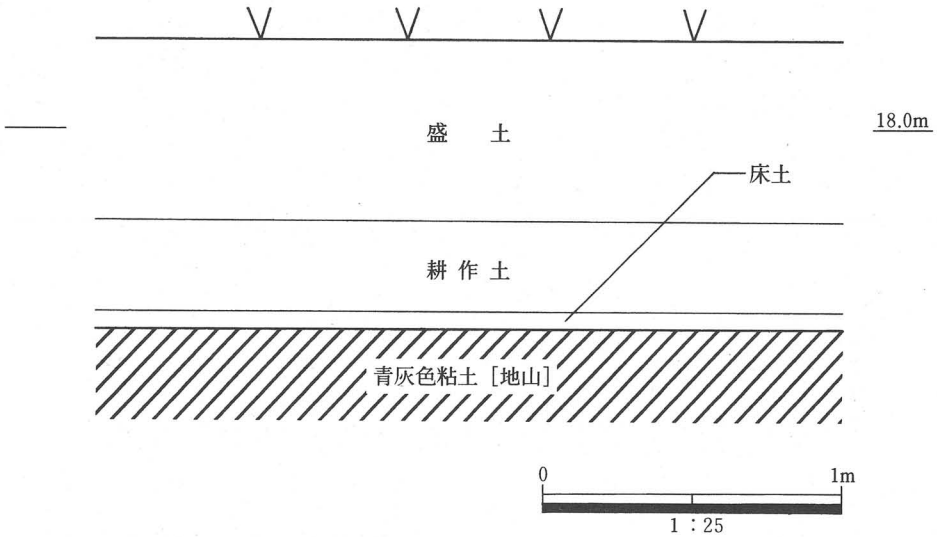


図20　郡家今城遺跡（2002-3）土層模式図

Ⅳ．宮田遺跡

11．宮田遺跡（2002－1地区）の調査

調査地は高槻市宮田町三丁目87－4番地にあたり、小字は「鎌木」である。現状は宅地である。このたび、個人住宅建設工事が計画されたため、事前に発掘調査を実施した。当該地は遺跡の西側にあたり、周辺の調査では中世の建物・溝・柵列・井戸などの他、縄文時代晩期の土器や弥生時代の土壙墓が検出されている。

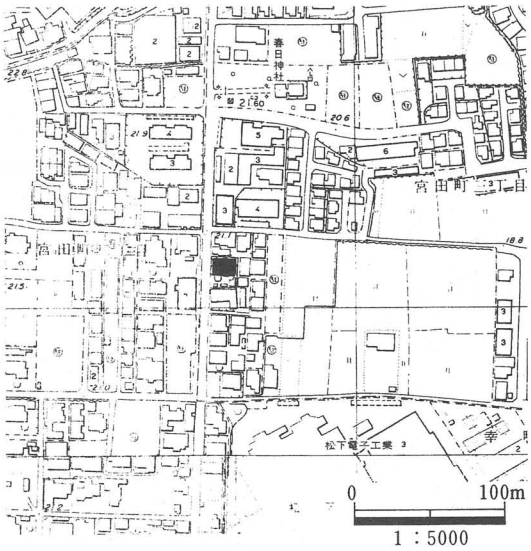


図21　宮田遺跡（2002-1）調査位置図

調査は、届出地南東部に調査区を設定し、重機で盛土・耕作土を除去した後に、人力による掘削及び精査をおこなった。基本層序は赤褐色砂質土(盛土：0.2m)、赤灰褐色砂質シルト(盛土：0.1m)、青灰色砂質シルト(耕作土：0.2m)、灰褐色シルト(遺物包含層：0.1m)、赤灰褐色シルト(地山：0.1m)、灰褐色砂質シルト〔地山〕である。灰褐色シルト層から土師器・須恵器・瓦器の小片が出土したが、遺構は検出されなかった。

（西村）

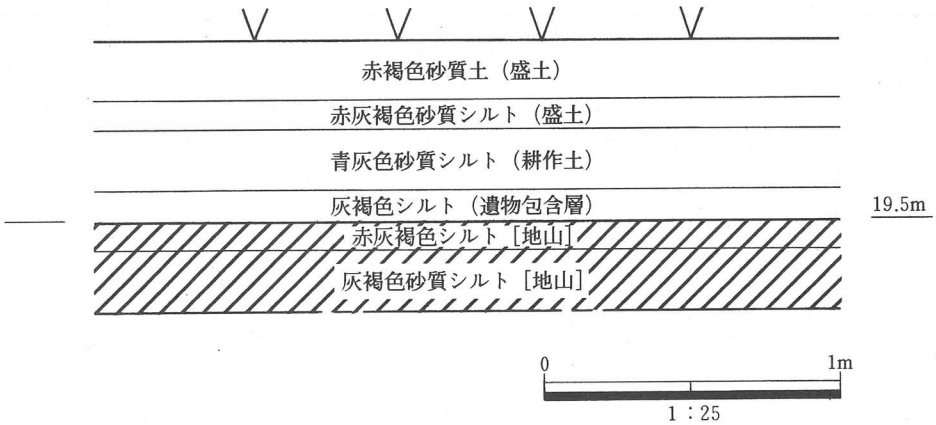


図22　宮田遺跡（2002-1）土層模式図

Ⅴ．中城遺跡

12．中城遺跡（2002－1地区）の調査

調査地は高槻市北昭和台町460－6番地の一部にあたり、小字は「安房」である。現状は宅地である。このたび、個人住宅建設にともない、工事立会を実施した。

層序は盛土(1.3m)、黄灰色砂質土(0.2m)、淡黄灰色土〔地山〕である。遺構・遺物は検出されなかった。　　（木曽）

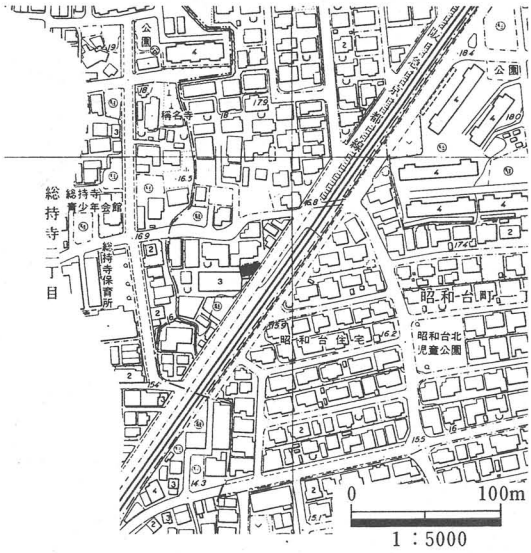


図23　中城遺跡（2002-1）調査位置図

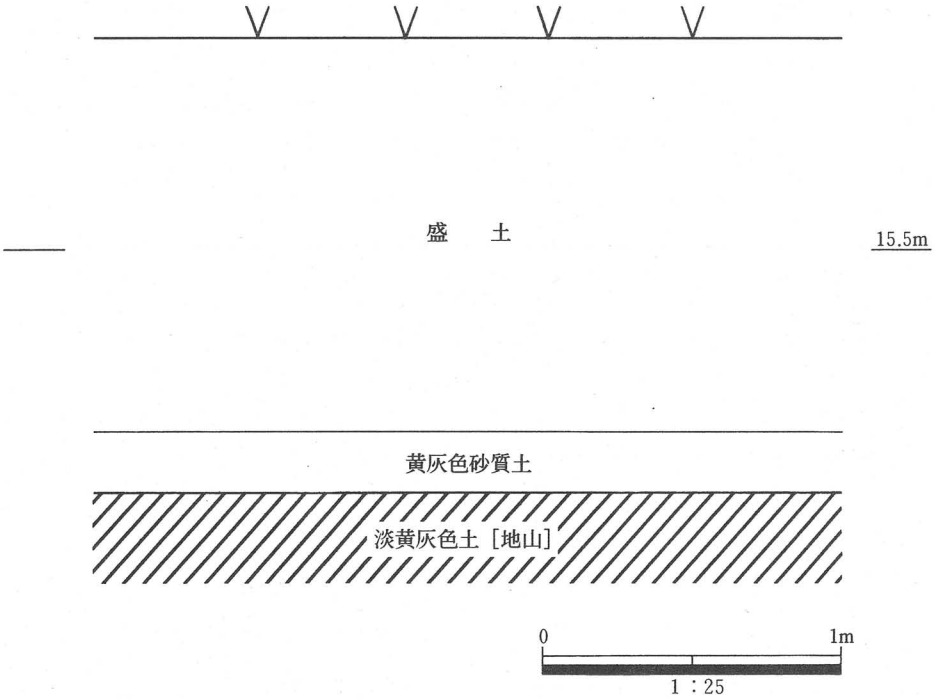


図24　中城遺跡（2002-1）土層模式図

13. 中城遺跡（2002―2地区）の調査

調査地は高槻市北昭和台町460－6番地の一部にあたり、小字は「安房」である。現状は宅地である。このたび、個人住宅建設にともない、工事立会を実施した。

層序は盛土(1.4m)、耕作土(0.2m)、床土(0.05m)、黄灰色砂質土(0.2m)、淡黄灰色土〔地山〕である。遺構・遺物は検出されなかった。（木曽）

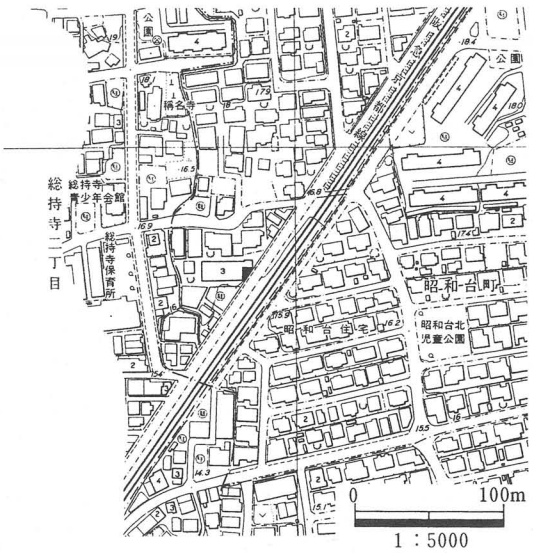


図25　中城遺跡（2002-2）調査位置図

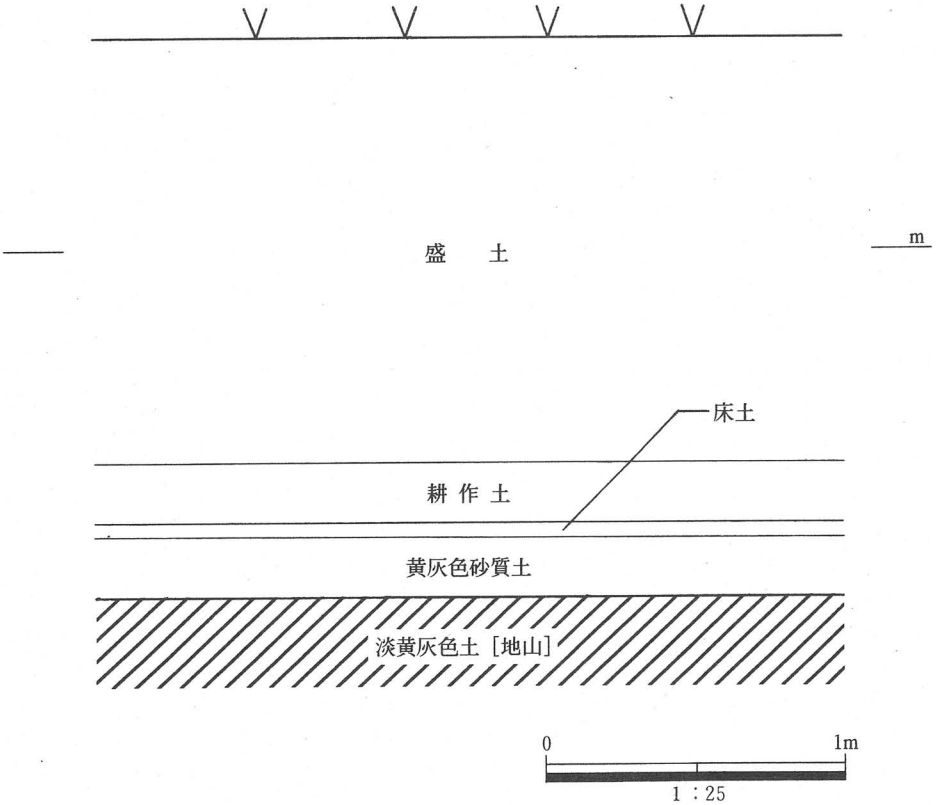


図26　中城遺跡（2002-2）土層模式図

Ⅵ．田能北遺跡

14．田能北遺跡（2002－1地区）の調査

調査地は高槻市大字田能小字上条１番地にあたり、小字は「宮ノ西」である。現状は宅地である。このたび、個人住宅建築にともなって工事立会を実施した。

層序は盛土(1.0m)、黄灰色砂質土(0.1m)、暗黄褐色粘土(0.1m)、暗黄灰色砂質土〔地山〕である。遺構・遺物は検出されなかった。(木曽)

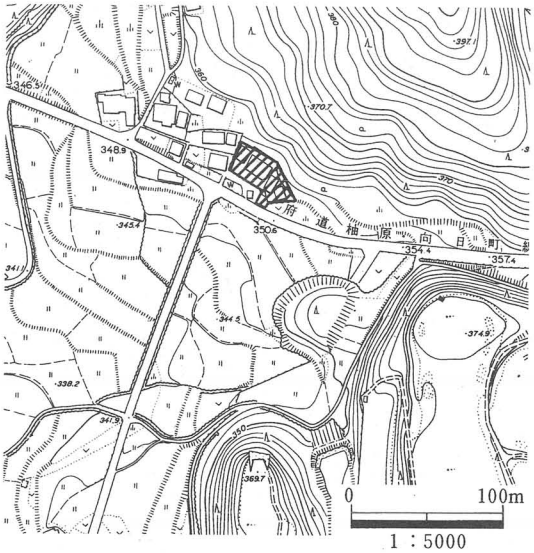


図27　田能北遺跡（2002-1）調査位置図

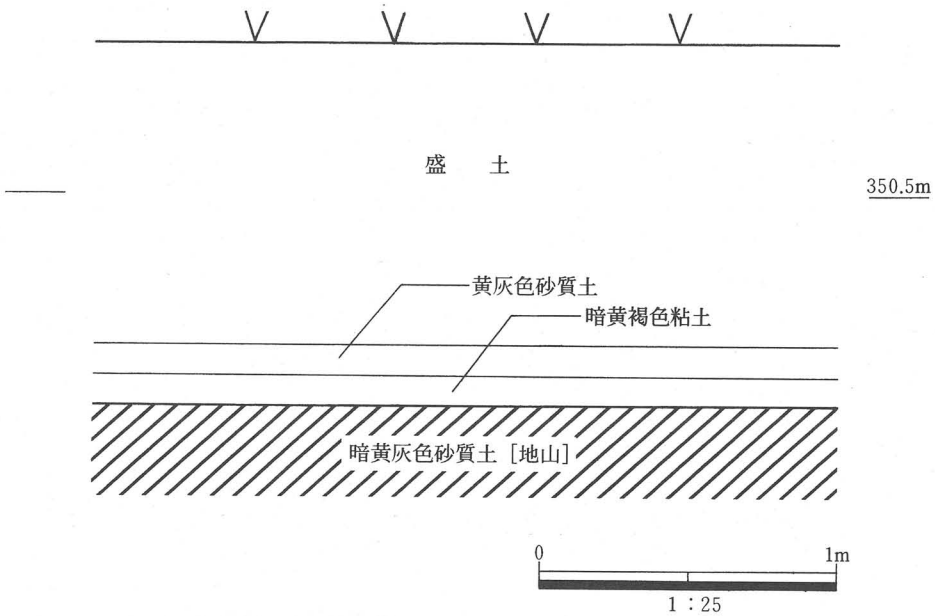


図28　田能北遺跡（2002-1）土層模式図

Ⅶ．天神山遺跡

15．天神山遺跡（2002ー1地区）の調査

調査地は高槻市天神町二丁目2－6番地にあたり、小字は「東山」である。現状は宅地である。このたび、個人住宅建設工事にともない、工事立会を実施した。

当該地は高槻市街を望む丘陵上に位置し、はやくから宅地開発が行われている地域である。層序は盛土(0.5m)、暗黄褐色粘土(0.7m)、黄灰色砂質土〔地山〕である。遺構・遺物は検出されなかった。　（木曽）

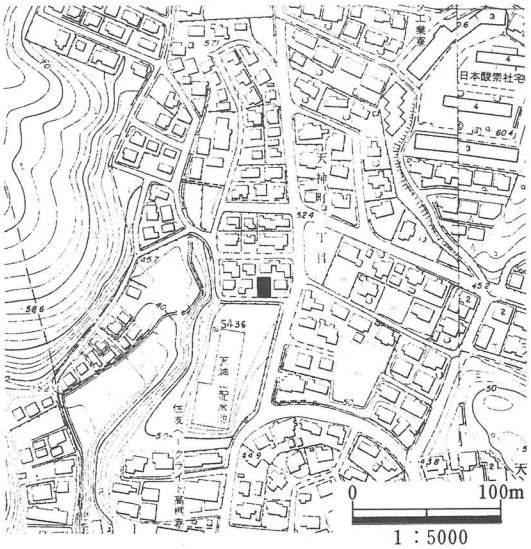


図29　天神山遺跡（2002-1）調査位置図

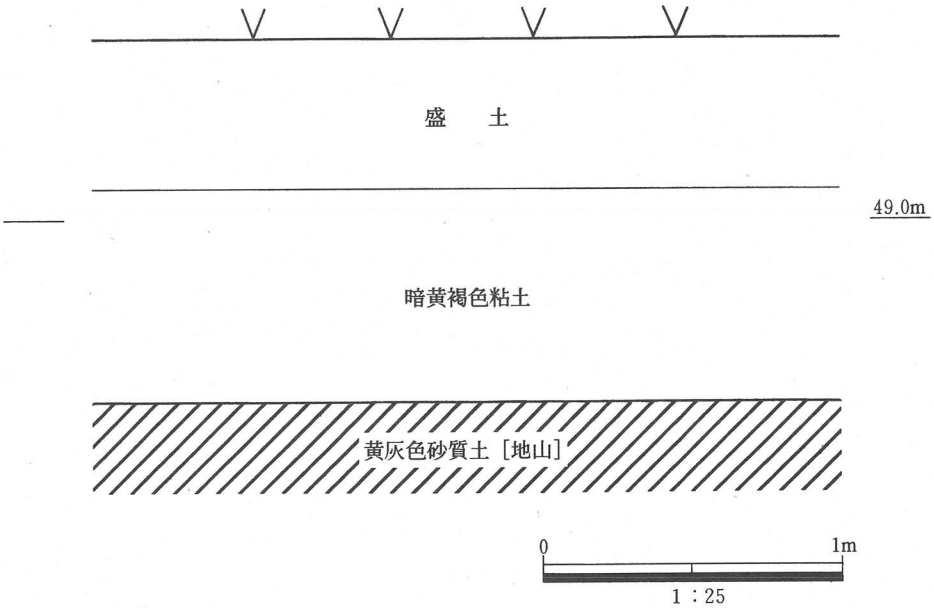


図30　天神山遺跡（2002-1）土層模式図

16. 天神山遺跡（2002－2地区）の調査

調査地は高槻市天神町二丁目10－36番地にあたり、小字は「天神山」である。現状は宅地である。このたび、個人住宅建設工事にともない、工事立会を実施した。

層序は盛土(0.54m)、黄褐色粘質土〔地山〕である。遺構・遺物は検出されなかった。(高橋)

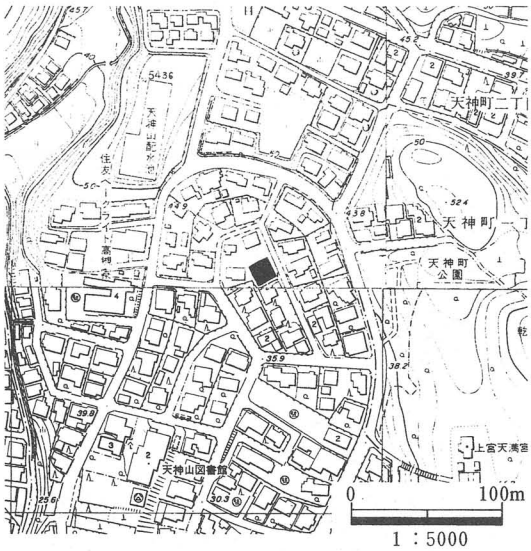


図31　天神山遺跡（2002-2）調査位置図

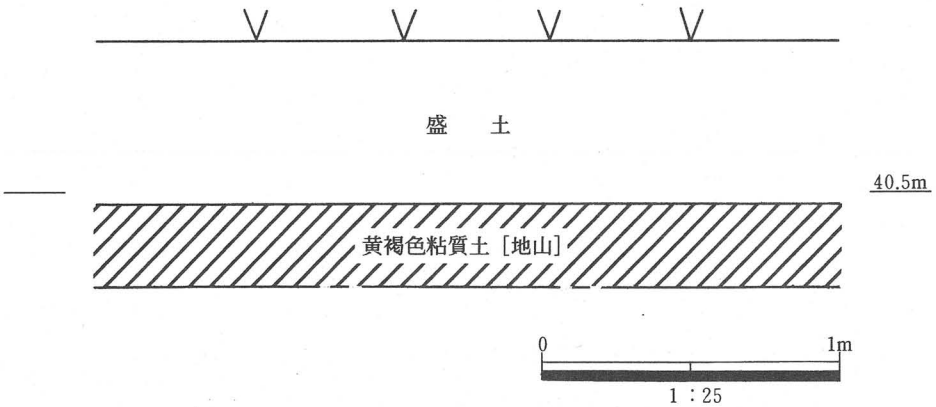


図32　天神山遺跡（2002-2）土層模式図

17. 天神山遺跡（2002ー3地区）の調査

調査地は高槻市天神町二丁目10－32番地にあたり、小字は「天神山」である。現状は宅地である。このたび、個人住宅建設工事にともない、工事立会を実施した。

層序は盛土・整地土(0.2m)、黄褐色土(0.2m)、暗灰褐色砂礫である。調査地は谷地形であることから、盛土以下は堆積土によって形成された地山であると解される。遺構・遺物は検出されなかった。（高橋）

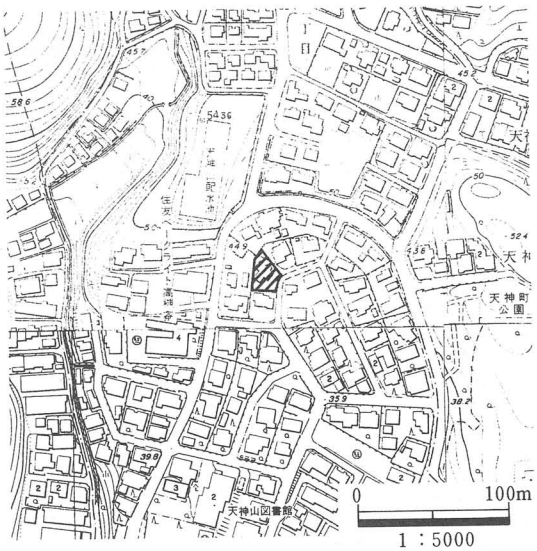


図33　天神山遺跡（2002-3）調査位置図

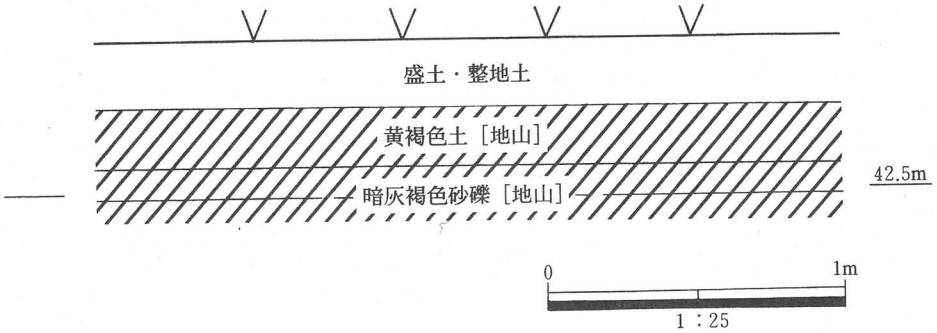


図34　天神山遺跡（2002-3）土層模式図

18. 天神山遺跡（2002ー4地区）の調査

調査地は高槻市天神町二丁目932－93番地にあたり、小字は「天神山」である。現状は宅地である。このたび、個人住宅建設工事にともない、工事立会を実施した。

層序は盛土・整地土(0.35m)、黄灰色粘質土〔地山〕である。遺構・遺物は検出されなかった。（高橋）

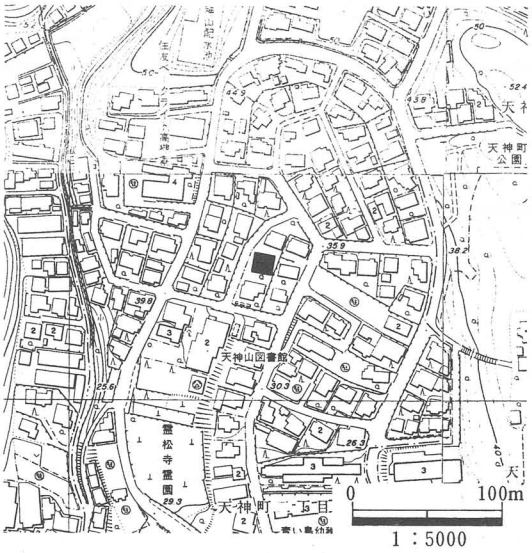


図35　天神山遺跡（2002-4）調査位置図

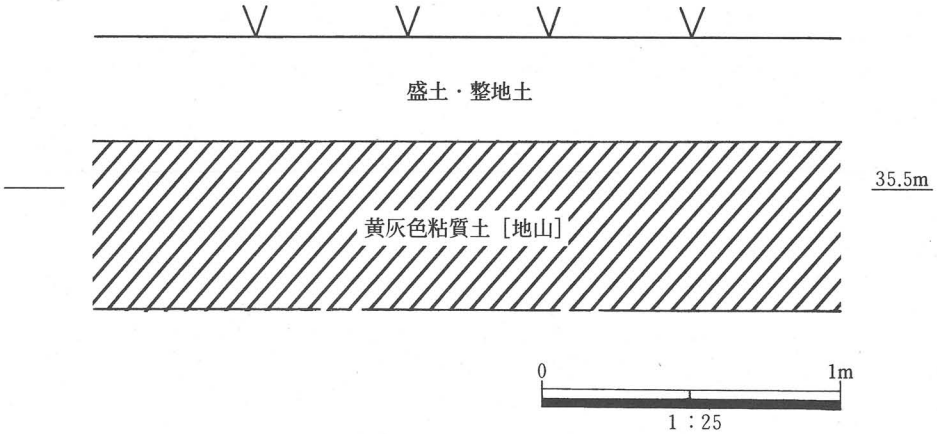


図36　天神山遺跡（2002-4）土層模式図

19. 天神山遺跡（2002―5地区）の調査

調査地は高槻市天神町１丁目1117番地にあたり、小字は「天神山」である。現状は上宮天満宮境内にあたる。このたび、社殿建築工事にともない、工事立会を行った。

社殿建築にともなう掘削は基壇内で収まるために遺構・遺物等は検出されなかった。（高橋）

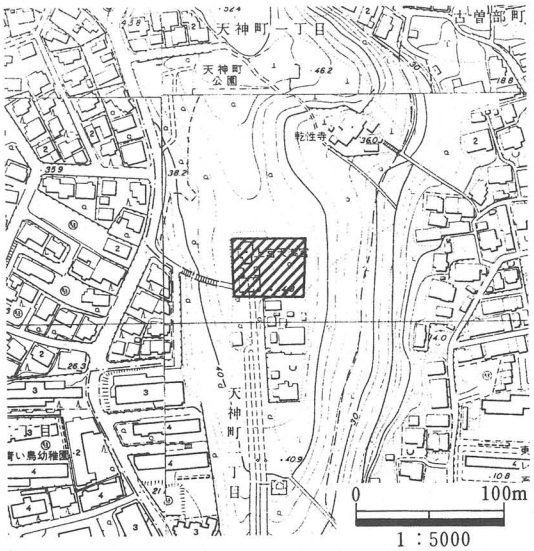


図37　天神山遺跡（2002-5）調査位置図

Ⅷ. 安満遺跡

20. 安満遺跡（2002―1地区）の調査

調査地は高垣町281－1にあたり、小字名は「対馬」と称する。共同住宅建設が計画されたため、工事に先立って発掘調査を実施した。

安満遺跡は檜尾川の扇状地上に広がる集落跡で、特に弥生時代の集落は三島地域を代表する拠点集落として位置付けられ、また古墳時代以降、古代・中世においても集落を形成していたことが判明しており、市域東部の代表的な集落遺跡として著名である。

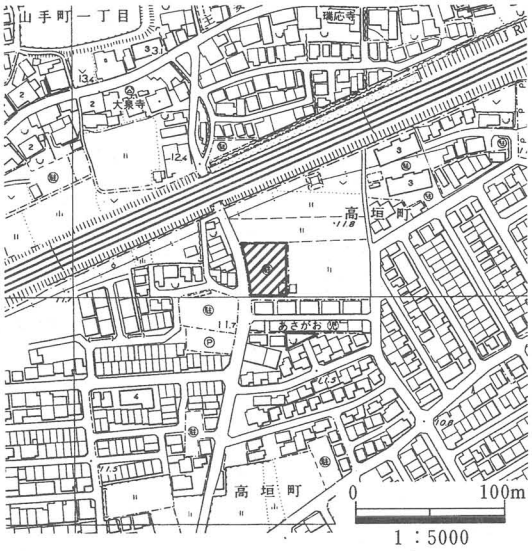


図38　安満遺跡（2002-1）調査位置図

当該地は遺跡の東半に位置する。南隣の区域の調査では、奈良時代から平安時代の遺構を中心に、一部で弥生時代の住居跡、さらに中世の井戸などを検出している(橋本久和・中村剛彰「安満遺跡の調査」『平成４年度　高槻市文化財年報』)。また、東方約50mの調査では、奈良時代から12世紀代の柱穴・溝等が検出されており、まとまって出土した土師器46個体・須恵器15個体は、本市における８世紀後半から末頃における土器編年の貴重な資料となっている(宮崎康雄「安満遺跡98－A地区出土の土器」『平成10年度　高槻市文化財年報』)。今回の調査でも、こうした遺構・遺物の検出が期待された。

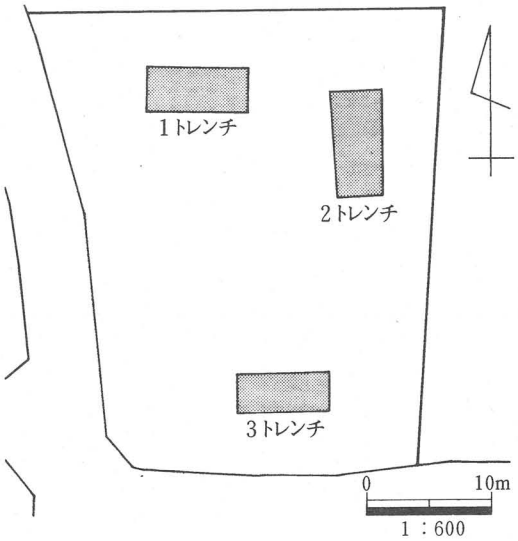


図39　安満遺跡（2002-1）調査区配置図

調査は３棟の建物建設予定位置に、それぞれ調査区を設定しておこなった(図39参照)。既往の調査結果から盛土が分厚く、現地表から遺構面まで深くなることが予想されたため、掘削には重機を使用した。そののち人力による精査をおこない、遺構の検出に努め、一部を断ち割って土層の観察をおこなった。

1トレンチ

1トレンチは届出地の北東部に設定した、東西7.9m、南北3.7mの調査区である。層序は、盛土(0.6m)、耕作土・床土(0.18m)、礫混じり暗褐色粘質土(遺物包含層：0.3～0.5m)、灰褐色砂礫(0.1m)、暗褐灰色粗砂(0.1m)、礫混じり黒灰色粘質土(遺物包含層：0.3～0.6m)となる。この礫混じり黒灰色粘質土の下層の淡褐青色砂質土上面で小穴を検出した。遺構面は地表下約1.8m、標高10.3mを測り、ほぼ平坦だが西端部ではやや西側に下がっている。

小穴はいずれも直径10～25cm、深さ10cm以下で、遺物は出土せず、明確な規則性は認められない。小穴1は調査区北東部で検出した。直径10cmの円形で、深さは6cmである。小穴2は小穴1の西側で検出した。直径25cmの円形を呈し、深さは7cmである。小穴3は中央部西寄りで検出したもので、直径は15cm、深さは5cmを測る。小穴4は、小穴3の西側に位置し、直径20～25の楕円形を呈し、深さは9cmである。

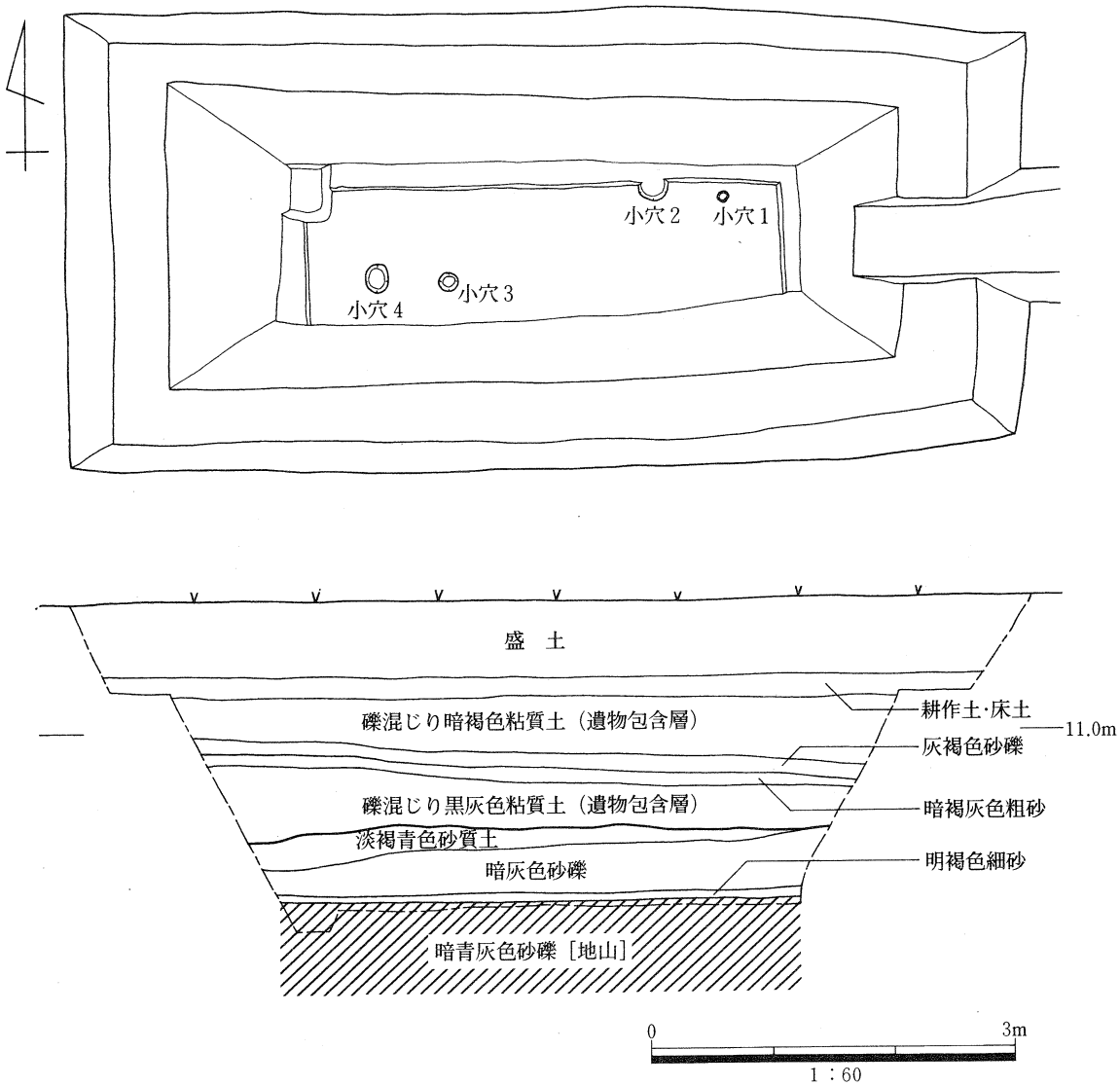
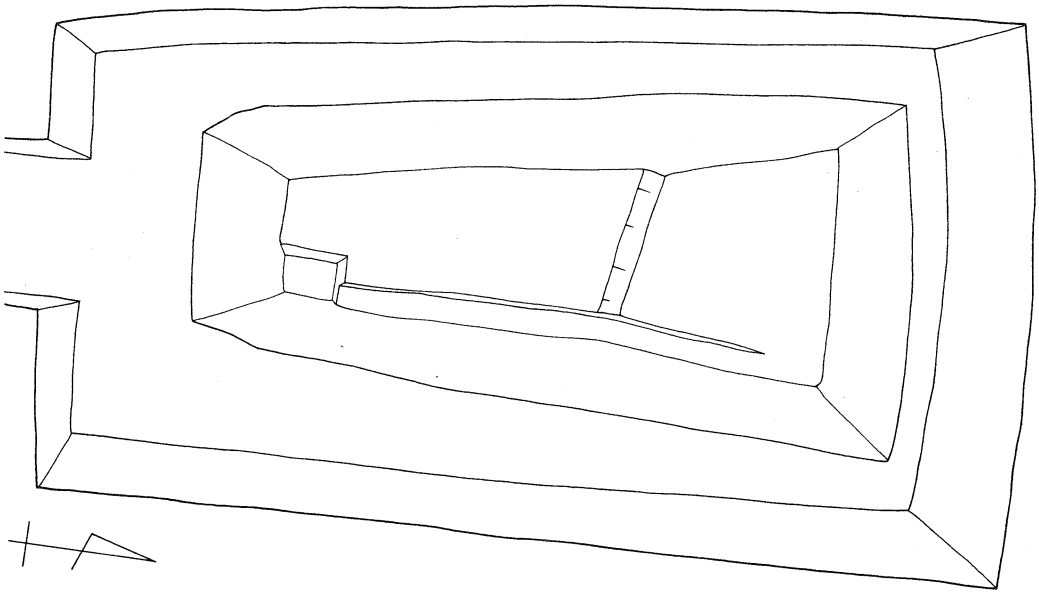


図40　安満遺跡（2002-1）1トレンチ平面図・土層図

遺構面を形成する淡褐青色砂質土は薄い層で、調査区東部では次第に消滅し、その他の部分でも下層の暗灰色砂礫がみられたので、一部を断ち割って土層を確認した。遺構面以下の土層は、淡褐青色砂質土(0.3m以下)、暗灰色砂礫(0.2～0.4m)、明褐色細砂(0.05m)、以下、暗青灰色粘土の地山となる。地山面の標高は9.6mで、ほぼ平坦面を呈する。

2トレンチ

2トレンチは届出地の北西部に設定した、東西4～4.5m、南北8.0mの調査区である。層序は、盛土(0.7m)、耕作土・床土(0.28m)、暗灰褐色粘質土(遺物包含層：0.4m)、暗黄褐色粘質土(遺物包含層：0.28～0.45m)、礫混じり黒灰色粘質土(遺物包含層：0.4m)、以下、淡褐青色砂質土となる。淡褐青色砂質土上面は標高9.95mにあたり、1トレンチの遺構面に対応するとみられ



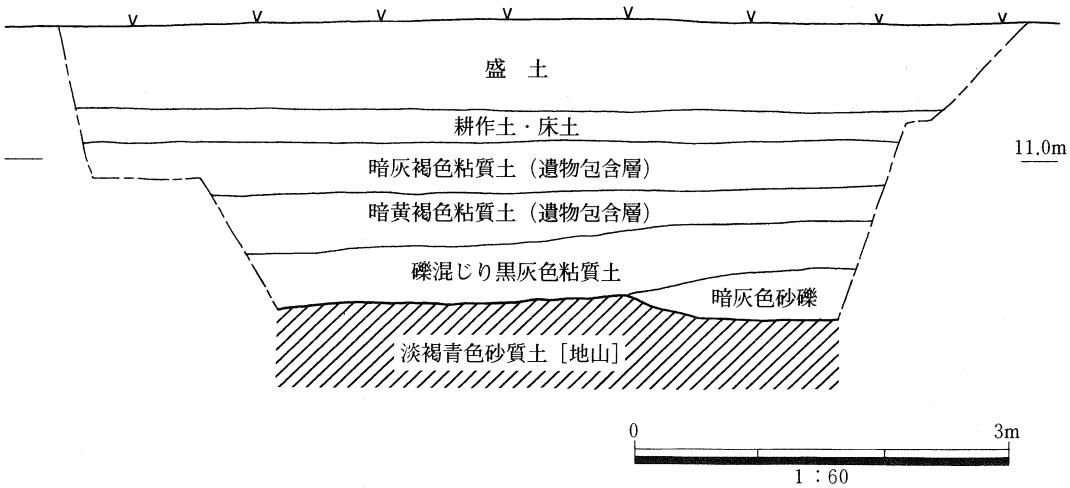


図41　安満遺跡（2002-1）2トレンチ平面図・土層図

る。ほぼ平坦面だが、北端部で約0.15m落ち込み、溝状を呈する。埋土は暗灰色砂礫である。

3トレンチ

3トレンチは届出地の南部に設定した、東西7.8m、南北2.7mの調査区である。層序は、盛土(0.6m)、耕作土・床土(0.3m)、灰褐色砂礫(0.15～0.38m)、淡褐灰色粘質土(遺物包含層：0.15m以下)、黒褐色粘質土(遺物包含層：0.2～0.6m)となる。黒褐色粘質土の下層である暗青灰色微砂・暗褐色粘質土の上面で小穴が検出されたところから、この面が遺構面と判明した。遺構面はやや起伏が認められ、最も高い位置の標高は10.38mを測る。

検出した小穴は調査区の東半部に集中する。いずれも遺物等は出土していない。

小穴5は東端付近で検出した。直径15cmの円形で、深さ16cmを測る。小穴6は小穴5の南側で検出した。直径0.3～0.4mの楕円形を呈し、深さは10cmである。小穴7は中央部東寄りで検出した。直径0.3～0.45mの不定円形で、西南側がやや張り出している。深さは16cmである。小穴8は小穴3の西側で検出した。直径0.35mの円形を呈し、深さは40cmである。小穴9は小

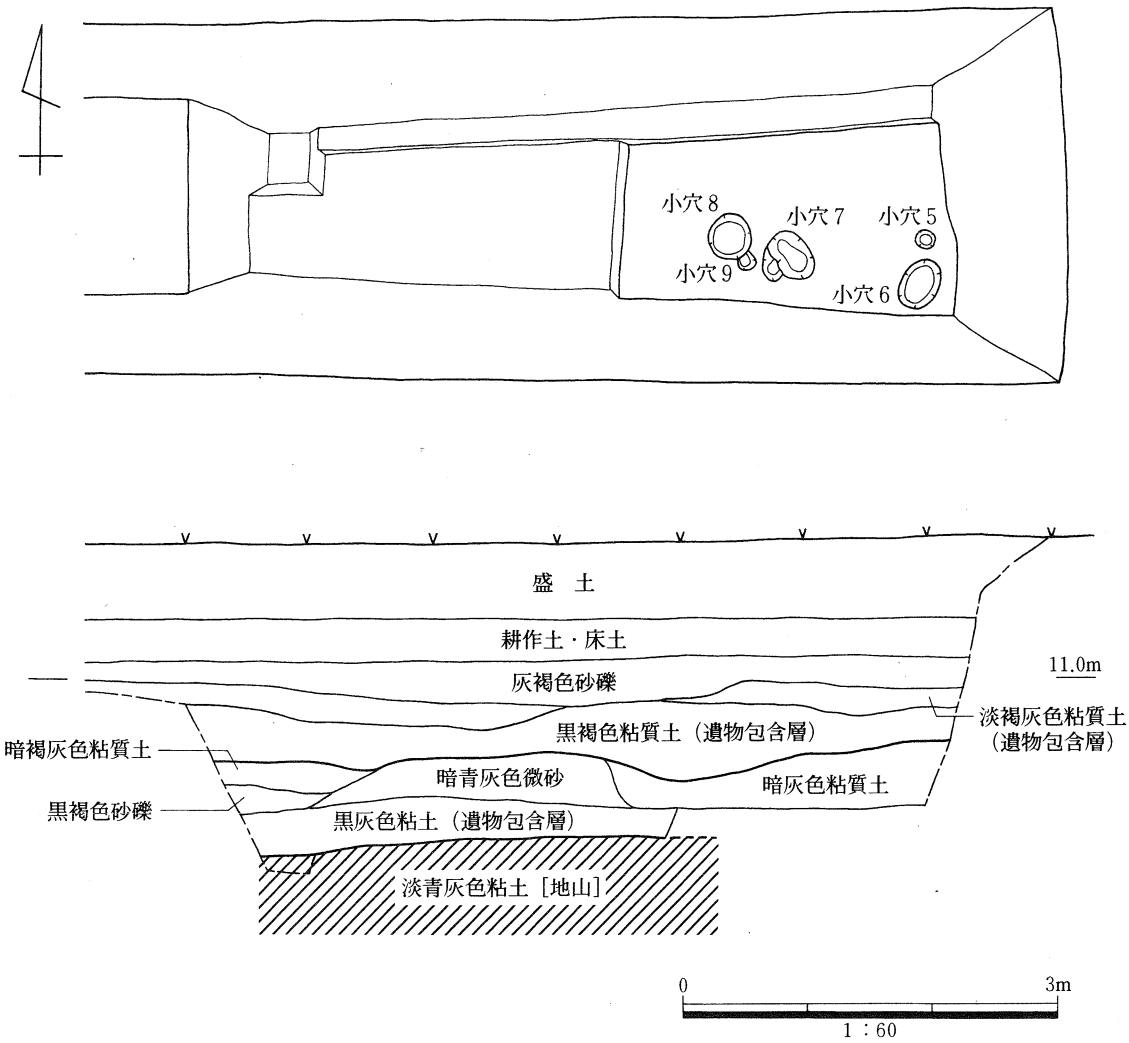


図42　安満遺跡（2002-1）3トレンチ平面図・土層図

穴８と重複して検出した。直径15cmの不定円形で、深さ５cmを測り、小穴８に切られている。

小穴等の遺構が認められなかった西半部については、断ち割りをおこなって土層の観察に努めた。遺構面は、西半が暗青灰色微砂、東半が暗褐色粘質土で形成され、西端部では暗褐灰色粘質土(0.2m以下)と黒褐色砂礫(0.2m以下)に細分できることが判明した。さらにその下層には弥生土器の細片を含む黒灰色粘土(0.2～0.3m)が認められ、淡青灰色粘土の地山となる。地山面の標高は9.73mである。

まとめ

今回の調査では小穴等の遺構が検出されたが、明確な規則性が認められず、遺構から出土する土器が皆無であることから時期も明らかでない。しかし、周辺の既往の調査では、奈良時代以降の遺構が普遍的に検出され、遺構としてのまとまりを欠く点で共通性があり、これらの小穴もそれらと一連のものと判断できる。おそらく、周辺一帯には一定の粗密をもってこうした遺構が展開しているものと推測される。　(高橋)

Ⅸ．高槻城跡

21．高槻城跡（2002―1地区）の調査

調査地は高槻市出丸町4－40番地にあたり、小字名は「出丸」である。現状は宅地である。このたび、個人住宅建設工事に伴い、工事立会を実施した。

層序は盛土(0.5m)、黄褐色土(0.2m)、青灰色砂質土(0.3m)、暗黄灰色粘土〔地山〕である。遺構・遺物は出土しなかった。　　（木曽）

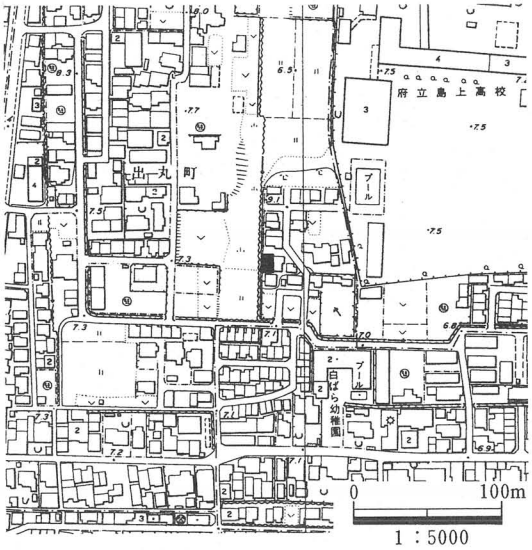


図43　高槻城跡（2002-1）調査位置図

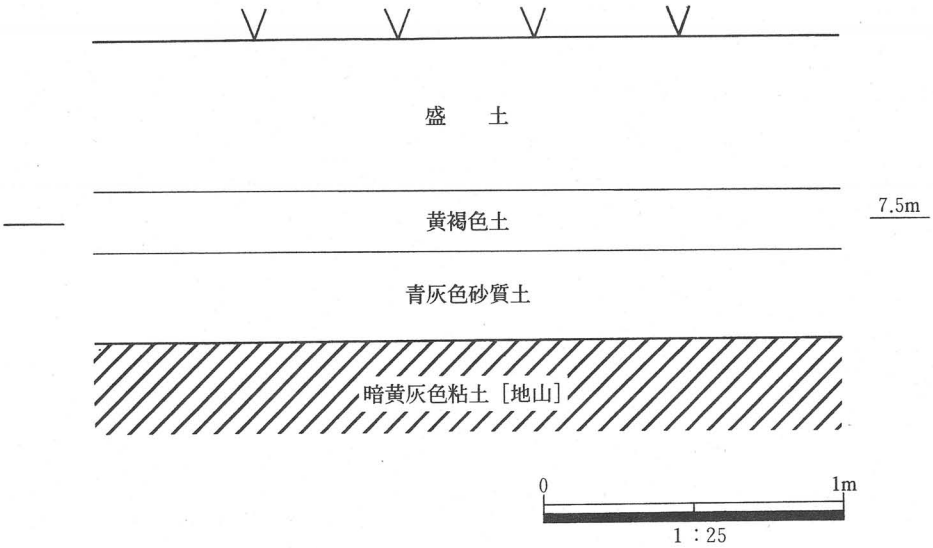


図44　高槻城跡（2002-1）土層模式図

22. 高槻城跡（2002ー2地区）の調査

調査地は高槻市城内町1015－25番地にあたり、小字は「三之丸」である。現状は宅地である。このたび、個人住宅建設工事に伴い、工事立会を実施した。

層序は盛土・整地土(1.3m)、黒青灰色粘土(旧耕作土：0.2m)、黒灰色粘土(外堀堆積土)である。近世高槻城の外堀堆積土を確認したが、遺物は出土しなかった。　　(高橋)

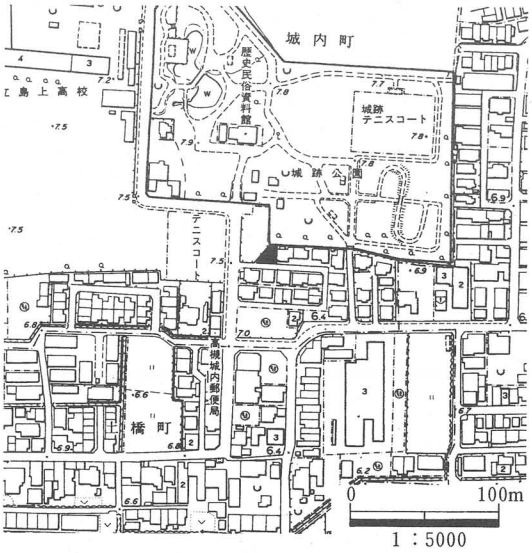


図45　高槻城跡（2002-2）調査位置図

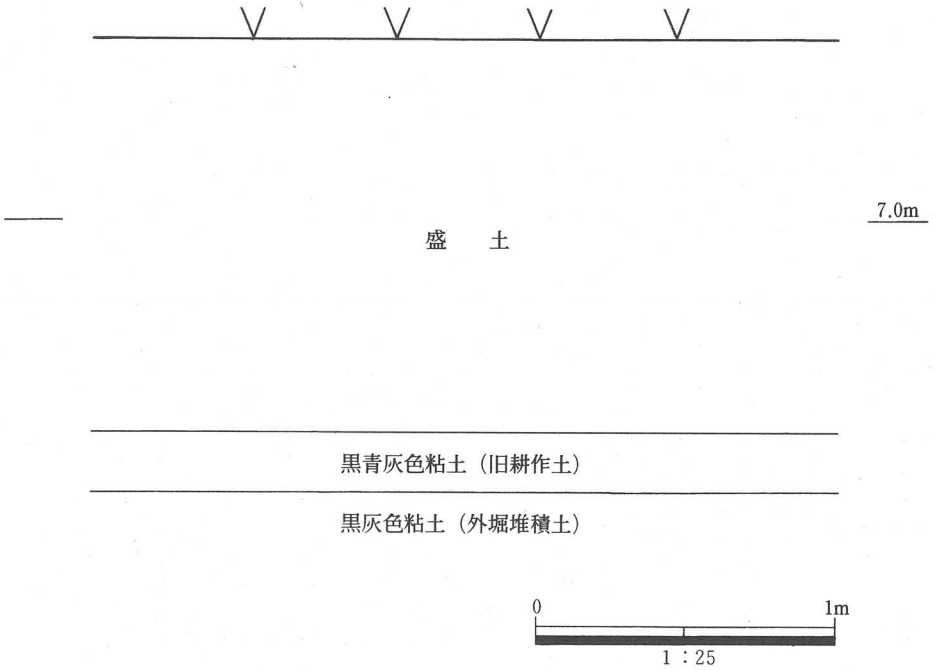


図46　高槻城跡（2002-2）土層模式図

23. 高槻城跡（2002ー3地区）の調査

調査地は高槻市城内町1015－８番地にあたり、小字は「三之丸」である。現状は宅地である。このたび、個人住宅建設工事に伴い、工事立会を実施した。

層序は盛土・整地土(0.9m)、黒青灰色粘土(旧耕作土：0.2m)、黒灰色粘土(0.9m以上：外堀堆積土)である。近世高槻城の外堀堆積土を確認したが、遺物は出土しなかった。　（高橋）

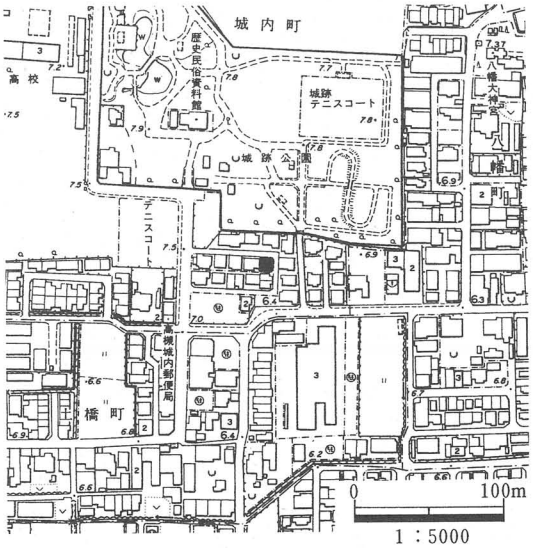


図47　高槻城跡（2002-3）調査位置図

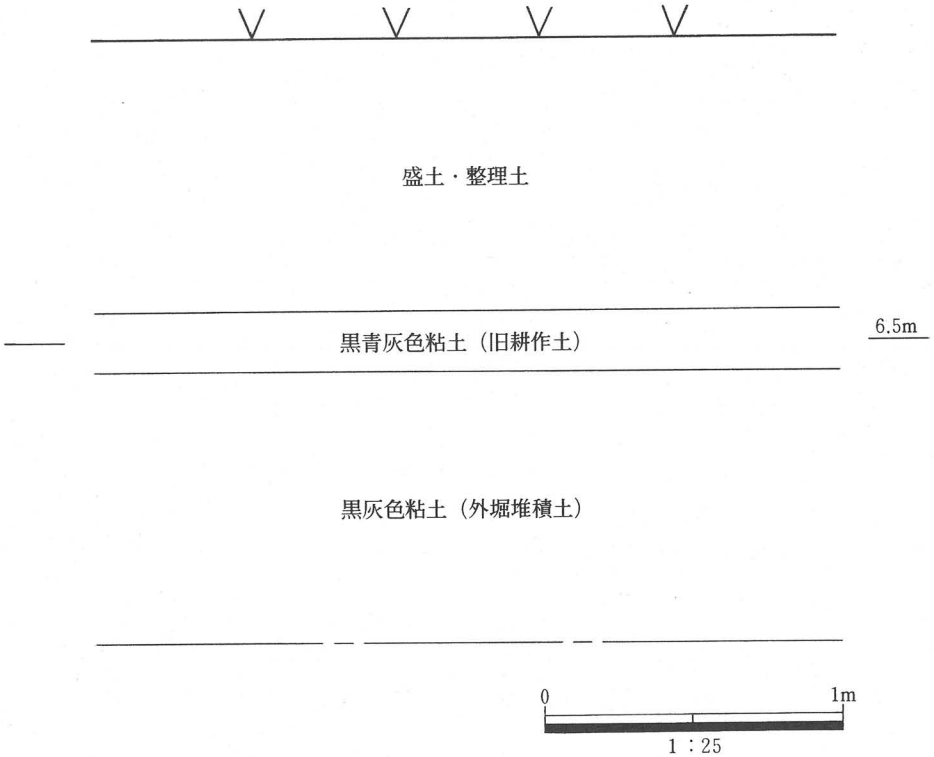


図48　高槻城跡（2002-3）土層模式図

24. 高槻城跡（2002－4地区）の調査

調査地は高槻市八幡町1052－13番地にあたり、小字は「裏三之丸」である。現状は宅地である。このたび、個人住宅建設工事に伴い、工事立会を実施した。

層序は盛土・整地土(0.3m)、淡青灰色粘土(旧耕作土：0.3m)、褐色砂礫(外堀埋土：0.3m)、暗青灰色粘土(1.0m以上：外堀堆積土)である。近世高槻城の外堀堆積土を確認したが、遺物は検出されなかった。　　(高橋)

図49　高槻城跡（2002-4）調査位置図

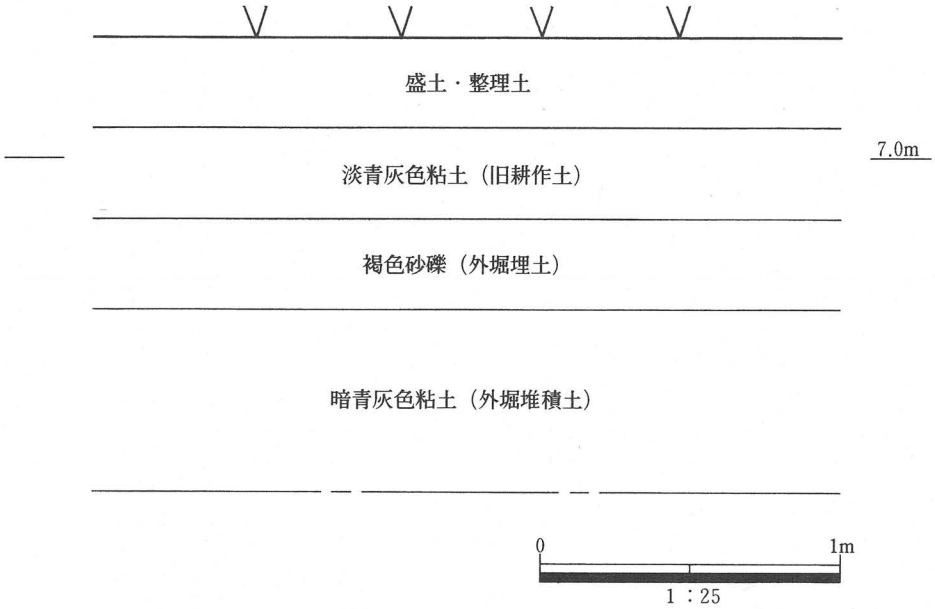


図50　高槻城跡（2002-4）土層模式図

25．高槻城跡（2002―5地区）の調査

調査地は高槻市大手町1133－3番地の一部

調査地は高槻市大手町1133－3番地にあたり、小字は「椋樹」である。現状は宅地である。このたび、個人住宅建設工事に伴い、工事立会を実施した。

層序は盛土・整地土(0.7m)、黒褐色粘土(0.3m)、黄褐色粘土[地山]である。近世高槻城の地山面を確認したが、遺物は出土しなかった。

（木曽）

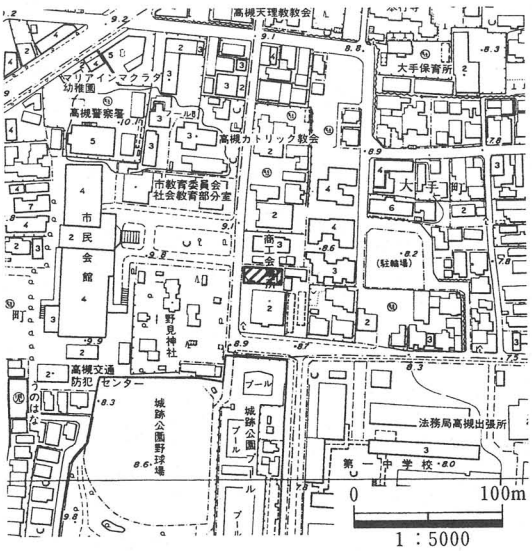


図51　高槻城跡（2002-5）調査位置図

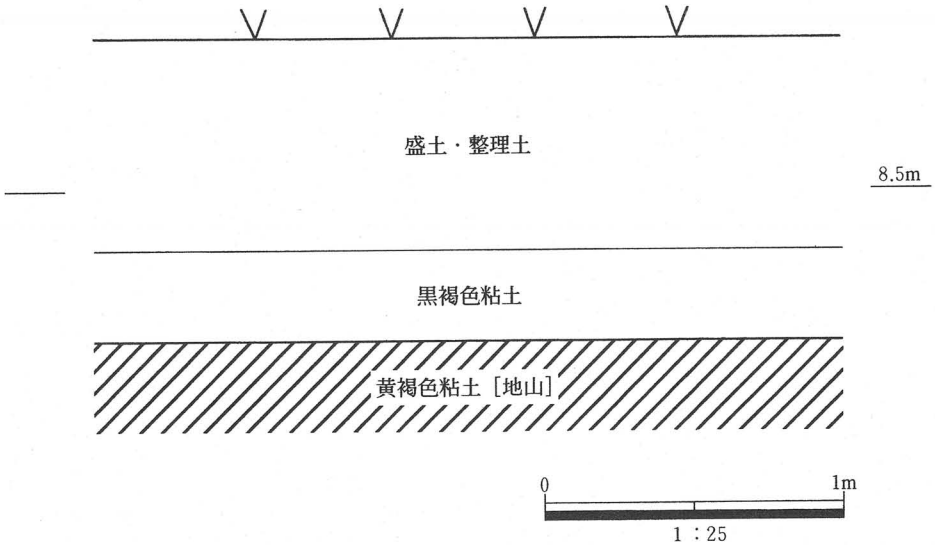


図52　高槻城跡（2002-5）土層模式図

26. 高槻城跡（2002−6地区）の調査

調査地は高槻市城内町1015−1番地の一部にあたり、小字は「三之丸」である。現状は宅地である。このたび、個人住宅建設工事に伴い、工事立会を実施した。

層序は盛土(0.7m)、暗青灰色粘土(旧耕作土：0.2m)、床土(0.15m)、黒灰色粘土(外堀堆積土)である。近世高槻城の外堀堆積土を確認したが、遺物は出土しなかった。　　(木曽)

図53　高槻城跡（2002-6）調査位置図

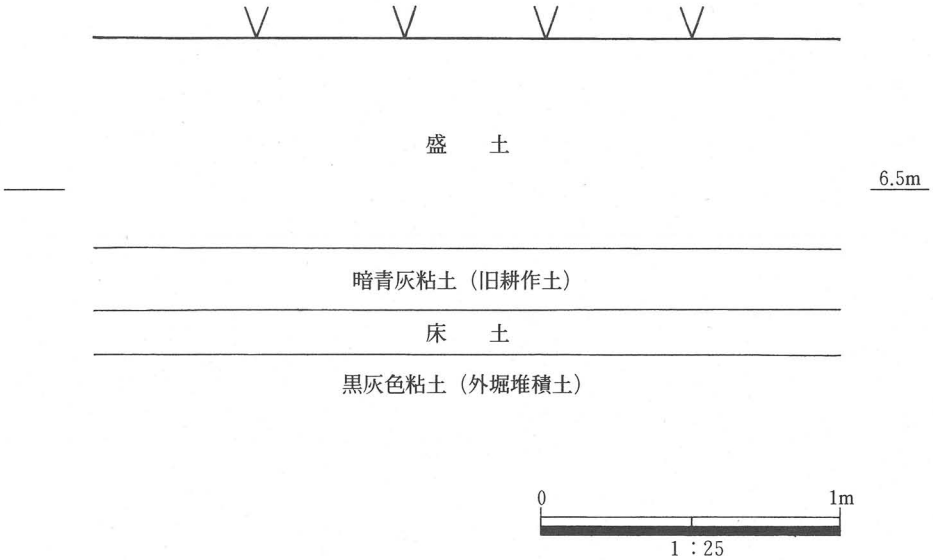


図54　高槻城跡（2002-6）土層模式図

X．闘鶏山古墳確認調査（第１次）

闘鶏山古墳は高槻市西部の奈佐原丘陵先端に立地する。小字「闘鶏山」に位置し、古くからその存在は知られていたものの、古墳としての実態は明らかではなかった。しかし平成14年１月、古墳を含むこの一帯の開発計画を契機に試掘調査を実施したところ、南向きの前方後円墳であること、後円部には古墳主軸に平行する２基の竪穴式石室が存在していることが確認された。そして石室天井のわずかの隙間を利用しておこなったファイバースコープ調査では、石室内部には銅鏡などの副葬品が残っており、石室そのものは盗掘を受けておらず、そのままの形で残っていることが判明した。そこで、文化庁及び大阪府教育委員会と協議をおこない、古墳の規模・形状を探るための確認調査を平成14年度国庫補助事業として実施した。その結果、闘鶏山古墳は全長は86.4m、後円部頂部の標高は84.4m、前方部は79.5mであることが判明した。

埋葬施設

２基の竪穴式石室を後円部で東西にほぼ並んで検出した。両石室とも全体の規模は明らかでないが、東側の石室は後円部の中央に位置し、墓壙の切り合いの観察により先行して築造されたことが確実で、古墳の中心的な埋葬施設とみられることから第１主体、西側の石室を第２主体とそれぞれ呼称する。

第１主体は墳頂から約２mの深さで検出した。石室上面は厚さ約10cmの粘土で密封されており、その下はやや大きめの板石（緑泥片岩）を不規則に積んで天井としている。壁面は板石の小口積みで持ち送りが強く、内側に傾いた構造である。底部は割竹形木棺を据えていた断面U字形の棺床が良く残り、この棺床の上面には、北側から三角縁神獣鏡２面、方格規矩鏡１面、石製腕飾り（鍬形石）、さらに奥には朱が付着した頭蓋骨や鉄刀が確認できた。

第２主体はやや後円部西寄りに位置し、約１mの深さで検出した。上面は厚さ約10cmの粘土で密封され、長さ80cm、幅20cm程度の板石をならべて天井とし、隙間を小さな板石で覆っている。壁面は板石の小口積みであるが、第１主体と異なり直立する。底部の断面Ｕ字形の棺床の上面には、割竹形木棺そのものが遺存しており、側板の一部は埋葬当初のまま直立し、小口板は内側に転倒しているものの、保存状況は良好とみられる。

墳丘の形状・年代

墳丘部の各調査区（後円部に４カ所、前方部に３カ所）では、墳丘斜面とテラス、そして外表施設として葺石を検出し、前方部は２段築成と判明した。一方後円部は、北側と東側は３段であるのに対し、墳丘北西側では２段となっている。これは、北西方向から延びてきた尾根筋を直交方向に掘り下げて墳丘北西側の裾部が形成されており、この掘り下げ深度が浅く、北側や東側の第１段裾部よりも高いために、最下段が造られなかったと解釈できる。

また、後円部第２段の上部には、第２主体構築後に施された盛土によって形成された壇状の

最上部が存在することも判明した。

埴輪は全く出土せず、樹立していなかったとみられる。一方、墳丘の流出土からは布留式期前半の様相を示す土師器二重口縁壺形土器が出土した。

ところで、古墳の南側に土壇状の高まりが存在しており、古墳に付属する施設の可能性もあることから、この部分にも調査区を設定した。その結果、南北長は13.8mを測り、平坦部の中央で土坑状の遺構を検出し、埋葬施設とも考えられるものの、現時点では詳細は不明である。

以上のように、闘鶏山古墳の規模と形状の概略が明らかとなり、さらに、埴輪を用いないこと、出土した古式土師器、そして第1主体で確認した三角縁神獣鏡の年代観などにより、4世紀前半頃の築造と推定される。

まとめ

闘鶏山古墳は淀川北岸地域に展開する三島古墳群のほぼ中央に位置しており、東側の谷を挟んだ丘陵先端から奥側へ、岡本山古墳(全長120m)、弁天山古墳(同100m)、弁天山C1号墳(同73m)が立地している。これらは古墳時代前期に相前後して築造された三島地域の首長墓と考えられており、闘鶏山古墳とこれら首長墓との関係が注目される。現時点での年代観では、岡本山古墳が3世紀後半、弁天山古墳が3世紀末から4世紀初頭、弁天山C1号墳が4世紀後半となっており、闘鶏山古墳は弁天山古墳の次に造られた首長墓と位置付けることができる。

高槻市では闘鶏山古墳を恒久的に保存するため、平成14年7月に国へ史跡指定の申請をおこない、同年12月19日付で、国史跡に指定された。 (高橋)

XI．岡本山古墳測量調査

淀川北岸地域において最大の規模を誇る三島古墳群のうち、南平台３丁目に所在する岡本山古墳は、３世紀後半に築造された三島地域の王墓と考えられ、郷土歴史遺産として特に重要である。前方部前端部分は名神高速道路建設時に削平されたものの、古墳の大半は周辺の市街化がすすむなかで山林として旧状を良好にとどめており、形状並びに遺存状況を明らかにするため、平成14年度国庫補助事業として測量調査を実施した。

調査は委託事業として実施した。まず現地作業として古墳本体と周辺部において、倒木の処理および必要最小限の伐採作業をおこない、次いでトータルステーションと電子レベルを使用し、縮尺1/100、等高線間隔25cmで図化した。そして、この縮尺1/100図を原図として編集し、縮尺1/200地形図を作成した。

今回の測量調査によって岡本山古墳の形状を詳細に把握することが可能となり、作成した地形図は今後の作業の基本図面となるものである。以下に現時点での成果を列記する。

1．後円部の直径は約74m、頂部の標高は92.416mを測る。

2．宅地に近接する後円部北側は崖がせまり、これに伴って等高線の乱れが認められる。

3．前方部中央付近の上面は標高86.3mの平坦面となり、前端方向に向かってスロープ状に緩やかに上る。

4．名神高速道路等による前方部前端部分の削平範囲及び造成工事による改変部分が明確になった。

（高橋）

XII. 今城塚古墳規模確認調査（第６次）

今城塚古墳は、６世紀前半に築造された二重の濠を有する淀川流域最大の前方後円墳であり、昭和33年２月に史跡指定を受けている。

平成９年度から同古墳の保存整備に必要な古墳各部のデータを得るため、規模確認調査を実施している。この調査は墳丘の遺存状況や内濠の幅・深さ等の形状把握と墳丘・内堤それぞれ基礎部分、そして内外濠埋土の観察・状況把握をおもな目的としている。これまでに実施した第１次～第５次調査により、古墳の規模や形状に関するデータを得るとともに、北側内堤において多量の形象埴輪をともなった埴輪祭祀区を検出した。

今年度の調査は、平成14年度国庫補助事業（総額52,000,000円）として実施した今城塚古墳の第６次規模確認調査であり、昨年度に検出した埴輪祭祀区の範囲確認及び造出と内濠の形状や遺存状況を把握するため、内堤北側の張出し部から造出にかけて数カ所の調査区を設定した。

調査の結果

＜内堤＞

内堤の調査区は、５次調査区の東西に設けたもので、外濠側円筒埴輪列と埴輪祭祀区の形象埴輪群及び溝２条などを検出した。

円筒埴輪列は第５次調査で見つかった埴輪列の延長線上に並ぶ。大部分は底部のみ遺存し、破損や散逸によって原位置をとどめない個体も多数みられた。東側調査区では円筒埴輪の上半部を打ち欠いた底部２個体分の上にまたがった形で３基の円筒埴輪を立て並べていた箇所があり、祭祀区とのかかわりが考えられる。

形象埴輪には家形３、柵形10、器財（蓋形２、大刀形４）、人物（巫女形２）、動物（馬形？９・水鳥形２）など30点以上あり、うち26点は基底部が遺存する。家形はいずれも東側調査区で検出したもので、上屋根を千木で飾る円柱高床式の大形建物１棟と壁立式の小形建物が２棟ある。柵形は２ヶ所にあり、形象埴輪群を区切るよう南北一列に並ぶ。西側調査区では馬など２列縦隊の動物が東西に並び、その北側では水鳥形が並んでいたようである。

内堤は旧地表上に築いたもので、内堤の北辺から南方へ約1.3mの厚さに礫土を盛り、整形していた。埴輪祭祀区を形成する張出は内堤の北斜面の形状を整えた後に盛土していた。土層断面の観察では内堤斜面及び外濠に腐植土や堆積土などが認められないことから、張出の造成に際しては地山を掘り込んだ外濠南辺部に粘質土を水平に積み上げたものと解される。表面は化粧土として均質な砂質土を盛って仕上げていた。

溝は２条あり、ともに後世の掘削である。溝２は５次調査区から続く幅0.4～0.8m、深さ0.6mの溝で内堤北縁を蛇行ぎみに延びる。

溝３は東調査区検出の南北溝である。幅３m、深さ0.2mで円筒埴輪列と形象埴輪群を掘りこ

み、西側に盛られた排土が土塁状となる。

＜造出＞

現況突出部分の盛土状況を確認するために断ち割ったところ、地表下4.2mで内濠底と造出基底部を検出した。これによって突出部は２次的に移動した盛土によって形成されていたことが判明した。本来の造出は現況突出部よりも墳丘側に位置しており、内濠部の現地表下2.9mで濠底となる。濠底での基底部裾部は前方部裾と平行につくられ、裾幅は東西35mである。後円部との境は幅約1.5～２mの溝状となり、濠底はくびれ部にむかって緩やかに上る。

遺物には円筒埴輪と須恵器、木製品などがある。埴輪はすべて円筒で、形象埴輪は皆無に等しい。内濠に２次的に埋積した盛土内には底部径30cm前後で底部が極端に厚い円筒埴輪があり、東西に並んだ状態であった。須恵器は小片となった杯・甕・器台などがあり、大部分が造出斜面から内濠底での出土である。木製品はいずれも内濠底から出土した。鋤などの掘削具３点をはじめ、杭やザル状木製品など12点以上を数える。

小　結

今回の調査では、埴輪祭祀のために築かれた張出に関して、規模並びに内堤本体と築造工程や盛土構造に違いがみられることが判明した。祭祀区からは多数の形象埴輪が出土し、これらの配列状況から柵形埴輪によって画された長さ７～10mの範囲のなかで配置されていた。これらの区画にはそれぞれ特徴的な形象埴輪が配され、区画毎に何らかの表現がなされていたと解される。

また、張出と造出とでは埴輪や土器等の出土状況に違いがみられることは、大規模古墳での祭祀を考える上で興味深い。

（宮崎）

XIII. まとめ

今年度は嶋上郡衙跡で５件、その他周辺の８遺跡で21件、合計26件の調査を実施した。

今年度の調査を振り返ってみると、調査基準に基づいた立会調査の増加傾向が昨年度に引き続いてみられることが特徴としてあげられる。また、天神山遺跡や高槻城跡など早くに開発の及んだ都心部の再開発に伴う調査が増加してきたことも本年の傾向としてあげられよう。

個別の遺跡について概観すると、古代の中心地域となる嶋上郡衙跡や郡家今城遺跡などでは遺跡周縁部分の小規模な調査自体も減少しつつあり、郡衙や寺院、官人集落などに直接関わるような遺構・遺物を検出するには至っていない。

天神山遺跡は戦後最初の発掘調査を行った遺跡として知られているが、逆に早い時期に開発の手が及んだため、遺跡の内容について不明確な部分が多い。近年、一帯の再開発に関わって調査件数が延びつつあるものの、その調査地点は遺跡の中心部分までは及んでいないようである。

安満遺跡では集落北東部の調査をおこなった。遺跡東部は古代から中世にかけての集落が展開することが知られており、南半部を中心に建物等が検出されている。調査はこの一画にあたることが想定されていたものの、掘立柱建物などは検出できず、小穴が分布するのみであったことから、居住域の中心は本調査区より南に展開したといえよう。

高槻城跡はおもに城郭外縁部の小規模な調査がなされ、外堀の位置等を確認することができた。このほか、二ノ丸跡の調査では枡形門跡や橋脚などを検出しており、近世高槻城の縄張り復元に関しても重要な位置を占めるものとなる。

三島古墳群では闘鶏山古墳と岡本山古墳の調査をおこなった。闘鶏山古墳については昨年12月19日に史跡指定され、恒久保存がはかられることとなった。調査の詳細は本文に譲るが、未盗掘の前方後円墳としての価値は計り知れないものがある。岡本山古墳ははじめて詳細な測量図を作成することができ、今後、古墳の保存にむけての基礎資料としていく考えである。

今城塚古墳では第６次規模確認調査を実施し、埴輪祭祀区の全長を確認することができたほか、埴輪の配置などの全容を知る手掛かりを得た。その具体的な内容については今後整理作業のなかで明らかとなっていくが、これらは畿内の大規模古墳における埴輪祭祀の状況をうかがい知る貴重な資料となろう。

（宮崎）

抄　　録

フリガナ	シマガミイセキグン
書名	嶋上遺跡群
副書名	
巻次	27
シリーズ名	高槻市文化財調査概要
シリーズ番号	30
編集者名	橋本久和　鐘ヶ江一朗　宮崎康雄　高橋公一　木曽広　清水良真　西村恵祥
編集機関	高槻市教育員会文化財課埋蔵文化財調査センター
所在地	大阪府高槻市南平台五丁目21－1
発行年月日	2003年3月

フリガナ 所収遺跡名		シマガミグンガアト 嶋上郡衙跡　5－D地区				
フリカナ 所在地		オオサカフ タカツキシ セイフクジチョウ 大阪府高槻市清福寺町759－1の一部				
コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 51′ 07″	135° 36′ 18″	20020905	立会	個人住宅建設
27207	39					
所収遺跡名	種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
嶋上郡衙	官衙	奈良・平安				

フリガナ 所収遺跡名		シマガミグンガアト 嶋上郡衙跡　5N－P地区				
フリカナ 所在地		オオサカフ タカツキシ セイフクジチョウ 大阪府高槻市清福寺町759－1の一部				
コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 51′ 07″	135° 36′ 18″	20020905	立会	個人住宅建設
27207	39					
所収遺跡名	種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
嶋上郡衙	官衙	奈良・平安				

フリガナ 所収遺跡名		シマガミグンガアト 嶋上郡衙跡　13－A地区				
フリカナ 所在地		オオサカフ タカツキシ グンゲホンマチ 大阪府高槻市郡家本町729				
コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 51′ 04″	135° 36′ 07″	20020909	立会	個人住宅建設
27207	39					
所収遺跡名	種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
嶋上郡衙	官衙	奈良・平安				

フリガナ 所収遺跡名		シマガミグンガアト 嶋上郡衙跡　43－C地区				
フリカナ 所在地		オオサカフ タカツキシ グンゲシンマチ 大阪府高槻市郡家新町395－27				
コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 50′ 52″	135° 36′ 06″	20020927	立会	個人住宅建設
27207	39					
所収遺跡名	種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
嶋上郡衙	官衙	奈良・平安				

フリガナ 所収遺跡名		シマガミグンガアト 嶋上郡衙跡　43－O地区				
フリガナ 所　在　地		オオサカフ タカツキシ グンゲシンマチ 大阪府高槻市郡家新町395－31				
コ　ー　ド		北　緯	東　経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 50′ 51″	135° 36′ 08″	20020722 ～ 20020726	9.00m²	個人住宅建設
27207	39					
所収遺跡名	種　別	時　代	主　な　遺　構	主　な　遺　物	特記事項	
嶋上郡衙	官　衙	奈良・平安				

フリガナ 所収遺跡名		カモジンジャアト 鴨神社跡（2002－1）				
フリガナ 所　在　地		オオサカフ タカツキシ 大阪府高槻市赤大路町４－８				
コ　ー　ド		北　緯	東　経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 50′ 07″	135° 35′ 17″	20020701 ～ 20020705	9.00m²	個人住宅建設
27207	125					
所収遺跡名	種　別	時　代	主　な　遺　構	主　な　遺　物	特記事項	
鴨神社跡	集　落	奈良・平安				

フリガナ 所収遺跡名		カモジンジャアト 鴨神社跡(2002－2)				
フリガナ 所　在　地		オオサカフ タカツキシ 大阪府高槻市赤大路町４－８				
コ　ー　ド		北　緯	東　経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 50′ 07″	135° 35′ 17″	20021129	立　会	個人住宅建設
27207	125					
所収遺跡名	種　別	時　代	主　な　遺　構	主　な　遺　物	特記事項	
鴨神社跡	集　落	奈良・平安				

フリガナ 所収遺跡名		グンゲイマシロ 郡家今城(2002－1)				
フリガナ 所　在　地		オオサカフ タカツキシ グンゲシンマチ 大阪府高槻市郡家郡家新町169－1の一部				
コ　ー　ド		北　緯	東　経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 50′ 43″	135° 36′ 18″	20021217 ～ 20021218	9.00m²	個人住宅建設
27207	42					
所収遺跡名	種　別	時　代	主　な　遺　構	主　な　遺　物	特記事項	
郡家今城	集　落	奈良・平安				

フリガナ 所収遺跡名		グンゲイマシロ 郡家今城(2002－2)				
フリガナ 所　在　地		オオサカフ タカツキシ グンゲシンマチ 大阪府高槻市郡家郡家新町169－1の一部				
コ　ー　ド		北　緯	東　経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 50′ 43″	135° 36′ 18″	20021219 ～ 20021220	9.00m²	個人住宅建設
27207	42					
所収遺跡名	種　別	時　代	主　な　遺　構	主　な　遺　物	特記事項	
郡家今城	集　落	奈良・平安				

フリガナ 所収遺跡名		ｸﾞﾝｹﾞｲﾏｼﾛ 郡家今城(2002－3)				
フリガナ 所　在　地		ｵｵｻｶﾌ ﾀｶﾂｷｼ ｸﾞﾝｹﾞｼﾝﾏﾁ 大阪府高槻市郡家郡家新町169－1の一部				
コ　ー　ド		北　緯	東　経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 50′ 43″	135° 36′ 18″	20021224 ～ 20021226	9.00㎡	個人住宅建設
27207	42					
所収遺跡名	種　別	時　代	主　な　遺　構	主　な　遺　物		特記事項
郡家今城	集　落	奈良・平安				

フリガナ 所収遺跡名		ﾐﾔﾀ 宮田(2002－1)				
フリガナ 所　在　地		ｵｵｻｶﾌ ﾀｶﾂｷｼ ﾐﾔﾀﾁｮｳ 大阪府高槻市宮田町三丁目87－4				
コ　ー　ド		北　緯	東　経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 50′ 28″	135° 35′ 39″	20021217	立　会	個人住宅建設
27207	19					
所収遺跡名	種　別	時　代	主　な　遺　構	主　な　遺　物		特記事項
宮　田	集　落	中　世				

フリガナ 所収遺跡名		ﾁｭｳｼﾞｮｳ 中城(2002－1)				
フリガナ 所　在　地		ｵｵｻｶﾌ ﾀｶﾂｷｼ ｷﾀｼｮｳﾜﾀﾞｲﾁｮｳ 大阪府高槻市北昭和台町460－6の一部				
コ　ー　ド		北　緯	東　経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 49′ 37″	135° 35′ 23″	20021126 ～ 20021128	9.00㎡	個人住宅建設
27207	47					
所収遺跡名	種　別	時　代	主　な　遺　構	主　な　遺　物		特記事項
中　城	集　落	弥生・中世				

フリガナ 所収遺跡名		ﾁｭｳｼﾞｮｳ 中城(2002－2)				
フリガナ 所　在　地		ｵｵｻｶﾌ ﾀｶﾂｷｼ ｷﾀｼｮｳﾜﾀﾞｲﾁｮｳ 大阪府高槻市北昭和台町460－6の一部				
コ　ー　ド		北　緯	東　経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 49′ 37″	135° 35′ 23″	20021126 ～ 20021128	9.00㎡	個人住宅建設
27207	47					
所収遺跡名	種　別	時　代	主　な　遺　構	主　な　遺　物		特記事項
中　城	集　落	弥生・中世				

フリガナ 所収遺跡名		ﾀﾉｳｷﾀ 田能北(2002－1)				
フリガナ 所　在　地		ｵｵｻｶﾌ ﾀｶﾂｷｼ ｵｵｱｻﾞﾀﾉｳ　ｺｱｻﾞｳｴｼﾞｮｳ 大阪府高槻市大字田能小字上条１				
コ　ー　ド		北　緯	東　経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 57′ 25″	135° 35′ 47″	20021224	立　会	個人住宅建設
27207	116					
所収遺跡名	種　別	時　代	主　な　遺　構	主　な　遺　物		特記事項
田能北	集　落	中　世				

フリガナ 所収遺跡名		テンジンヤマ 天神山(2002－1)				
フリガナ 所　在　地		オオサカフ タカツキシ テンジンチョウ 大阪府高槻市天神町二丁目２－６				
コ　ー　ド		北　緯	東　経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 51′ 23″	135° 37′ 05″	20020516 ～ 20020520	9.00㎡	個人住宅建設
27207	72					
所収遺跡名	種　別	時　代	主　な　遺　構	主　な　遺　物		特記事項
天神山	集　落	弥　生				

フリガナ 所収遺跡名		テンジンヤマ 天神山(2002－2)				
フリガナ 所　在　地		オオサカフ タカツキシ テンジンチョウ 大阪府高槻市天神町二丁目10－36				
コ　ー　ド		北　緯	東　経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 51′ 20″	135° 37′ 09″	20020729 ～ 20020731	9.00㎡	個人住宅建設
27207	72					
所収遺跡名	種　別	時　代	主　な　遺　構	主　な　遺　物		特記事項
天神山	集　落	弥　生				

フリガナ 所収遺跡名		テンジンヤマ 天神山(2002－3)				
フリガナ 所　在　地		オオサカフ タカツキシ テンジンチョウ 大阪府高槻市天神町二丁目10－32				
コ　ー　ド		北　緯	東　経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 51′ 21″	135° 36′ 07″	20020809	立　会	個人住宅建設
27207	72					
所収遺跡名	種　別	時　代	主　な　遺　構	主　な　遺　物		特記事項
天神山	集　落	弥　生				

フリガナ 所収遺跡名		テンジンヤマ 天神山(2002－4)				
フリガナ 所　在　地		オオサカフ タカツキシ テンジンチョウ 大阪府高槻市天神町二丁目932－93				
コ　ー　ド		北　緯	東　経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 51′ 22″	135° 37′ 04″	20020829	立　会	個人住宅建設
27207	72					
所収遺跡名	種　別	時　代	主　な　遺　構	主　な　遺　物		特記事項
天神山	集　落	弥　生				

フリガナ 所収遺跡名		テンジンヤマ 天神山(2002－5)				
フリガナ 所　在　地		オオサカフ タカツキシ テンジンチョウ 大阪府高槻市天神町二丁目1117				
コ　ー　ド		北　緯	東　経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 51′ 12″	135° 37′ 14″	20020902	立　会	個人住宅建設
27207	72					
所収遺跡名	種　別	時　代	主　な　遺　構	主　な　遺　物		特記事項
天神山	集　落	弥　生				

フリガナ 所収遺跡名		アマ 安満(2002－1)				
フリガナ 所　在　地		オオサカフ タカツキシ タカガキチョウ 大阪府高槻市高垣町281－1				
コ　ー　ド		北　緯	東　経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 51′ 21″	135° 38′ 26″	20021002 ～ 20021011	86.30㎡	集合住宅建設
27207	83					
所収遺跡名	種　別	時　代	主　な　遺　構	主　な　遺　物		特記事項
安　満	集　落	弥　生		弥生土器・土師器		

フリガナ 所収遺跡名		タカツキジョウ 高槻城跡(2002－1)				
フリガナ 所　在　地		オオサカフ タカツキシ デマルチョウ 大阪府高槻市出丸町4－40				
コ　ー　ド		北　緯	東　経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 50′ 19″	135° 37′ 22″	20020708 ～ 20020712	9.00㎡	個人住宅建設
27207	85					
所収遺跡名	種　別	時　代	主　な　遺　構	主　な　遺　物		特記事項
高槻城	城　跡	中世・近世				

フリガナ 所収遺跡名		タカツキジョウ 高槻城跡(2002－2)				
フリガナ 所　在　地		オオサカフ タカツキシ ジョウナイチョウ 大阪府高槻市城内町1015－25				
コ　ー　ド		北　緯	東　経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 50′ 20″	135° 37′ 33″	20020716 ～ 20020718	立　会	個人住宅建設
27207	85					
所収遺跡名	種　別	時　代	主　な　遺　構	主　な　遺　物		特記事項
高槻城	城　跡	中世・近世				

フリガナ 所収遺跡名		タカツキジョウ 高槻城跡(2002－3)				
フリガナ 所　在　地		オオサカフ タカツキシ ジョウナイチョウ 大阪府高槻市城内町1015－8				
コ　ー　ド		北　緯	東　経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 50′ 19″	135° 37′ 33″	20020912	立　会	個人住宅建設
27207	85					
所収遺跡名	種　別	時　代	主　な　遺　構	主　な　遺　物		特記事項
高槻城	城　跡	中世・近世				

フリガナ 所収遺跡名		タカツキジョウ 高槻城跡(2002－4)				
フリガナ 所　在　地		オオサカフ タカツキシ ヤワタチョウ 大阪府高槻市八幡町1052－13				
コ　ー　ド		北　緯	東　経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 50′ 24″	135° 37′ 39″	20020903	立　会	個人住宅建設
27207	85					
所収遺跡名	種　別	時　代	主　な　遺　構	主　な　遺　物		特記事項
高槻城	城　跡	中世・近世				

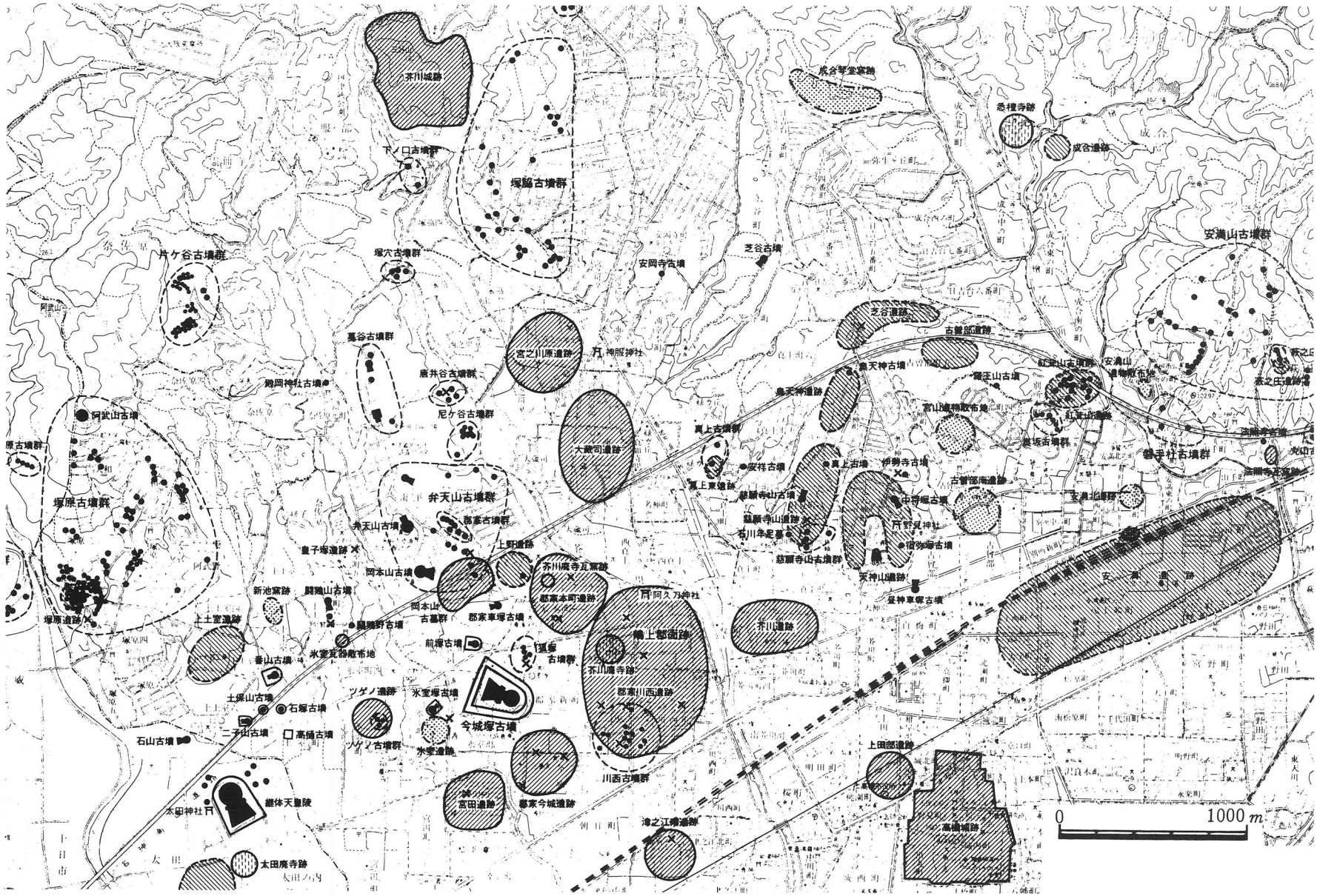
フリガナ 所収遺跡名		タカツキジョウ 高槻城跡(2002－5)				
フリガナ 所　在　地		オオサカフ タカツキシ オオテチョウ 大阪府高槻市大手町1133－3の一部				
コ　ー　ド		北　緯	東　経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 50′ 19″	135° 37′ 33″	20021212	立　会	個人住宅建設
27207	85					
所収遺跡名	種　別	時　代	主　な　遺　構	主　な　遺　物		特記事項
高槻城	城　跡	中世・近世				

フリガナ 所収遺跡名		タカツキジョウ 高槻城跡(2002－6)				
フリガナ 所　在　地		オオサカフ タカツキシ ジョウナイチョウ 大阪府高槻市城内町1015－1の一部				
コ　ー　ド		北　緯	東　経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 50′ 24″	135° 37′ 39″	20021226	立　会	個人住宅建設
27207	85					
所収遺跡名	種　別	時　代	主　な　遺　構	主　な　遺　物		特記事項
高槻城	城　跡	中世・近世				

図　　版

図版第1

嶋上郡衙跡とその周辺



a. 安満遺跡（2002−1）1トレンチ（東側から）

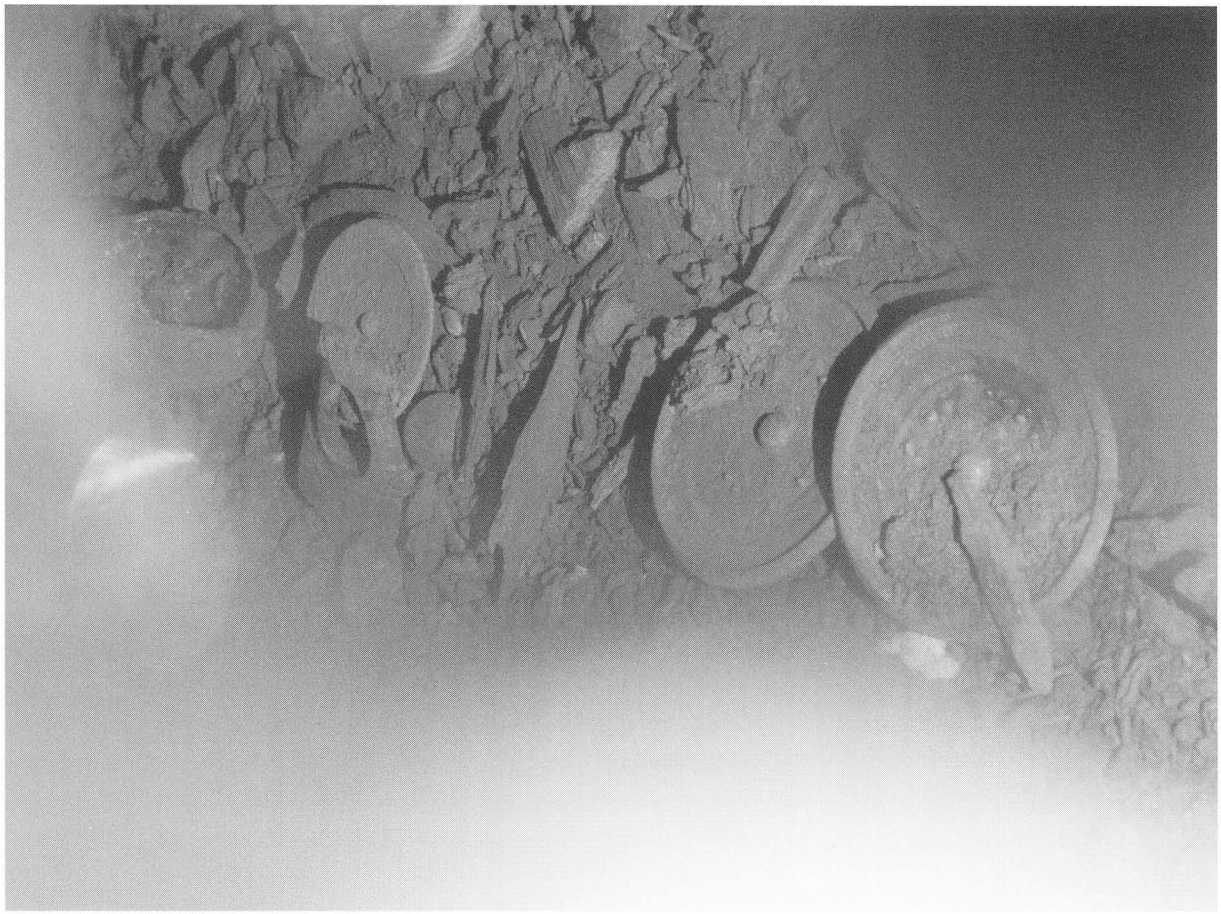
b. 安満遺跡（2002−1）2トレンチ（南側から）

a. 安満遺跡（2002−1）3トレンチ（西側から）

b. 嶋上郡衙跡（5N−P地区） 全景

a. 調査前の闘鶏山古墳（南東側から）

b. 闘鶏山古墳　主体部検出状況（手前：第1主体　奥：第2主体　北東側から）



a. 闘鶏山古墳　第1主体内部の状況

b. 闘鶏山古墳　後円部北側斜面　第3段　葺石検出状況（北側から）

a. 今城塚古墳　内堤調査区全景（北東側から）

b. 今城塚古墳　造出（北側から）

a. 今城塚古墳　埴輪検出状況（東調査区：北側から）

b. 今城塚古墳　埴輪検出状況（西調査区：東側から）

高槻市文化財調査概要 XXX

嶋上遺跡群 27

平成 15 年 3 月 31 日

発　行　高槻市教育委員会
文化財課　埋蔵文化財調査センター
高槻市南平台五丁目21番1号

印　刷　株式会社　邦文社
大阪市東淀川区大桐1丁目4番9号